Central Station

märklin digital

J

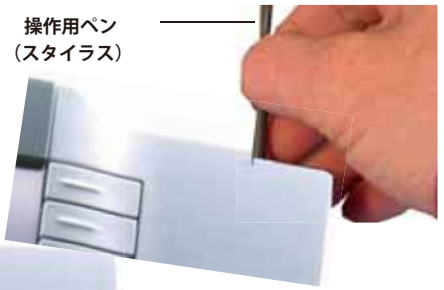
索引：

		ページ
Central Station (CS)		3
コントロールパネルと接続		
準備と開始		4
はじめに		7
Control		8
運転		9
機関車登録		10
機関車設定		13
CV値（パラメータ）変更		14
統括機能		17
CSの電源オフ		18
Keyboard		19
制御		20
転車台		20
設定		20
デジタル色灯式信号機のプログラミング		23
Layout		24
設定		25
制御		27
Memory		28
ルートの設定		30
ルートの制御		30
ルートの消去		30
Setup		31
セットアップ		32
ネットワーク		32
モバイルステーション		33
接続機器の情報		33
付録		
用意されているファンクションシンボル		34
システム構成図		35

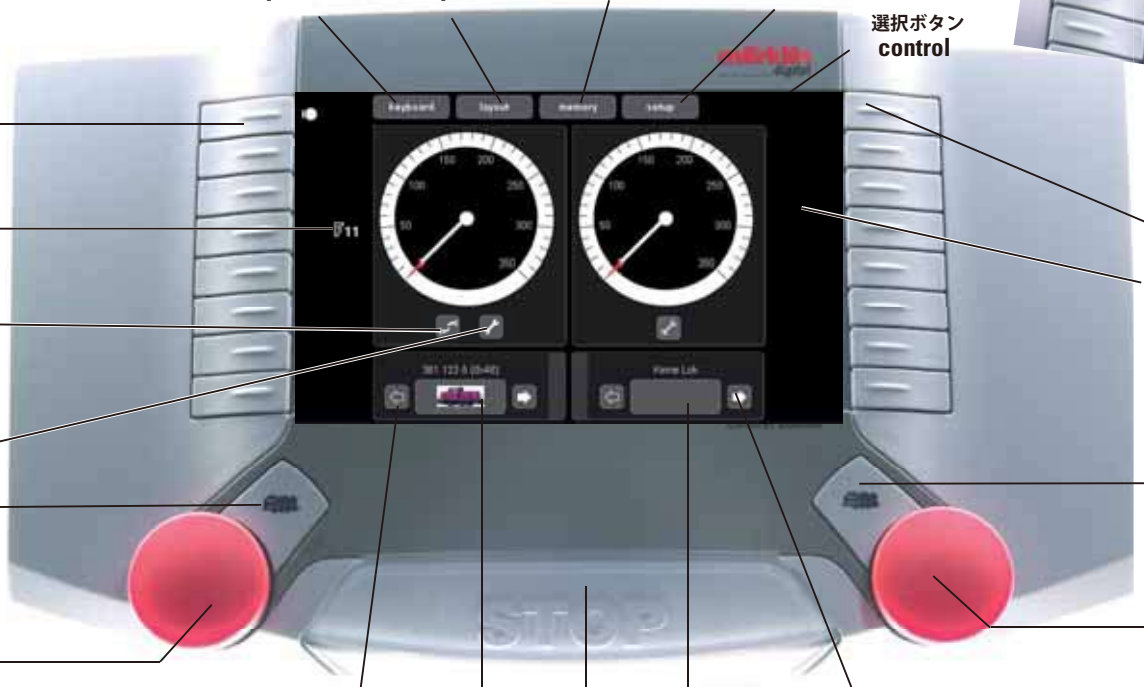
Central Station

= メルクリンデジタルの操作手順

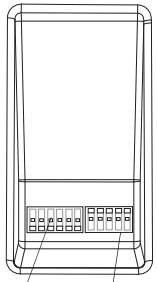
= **DCC** の操作手順



操作用ペン
（スタイラス）



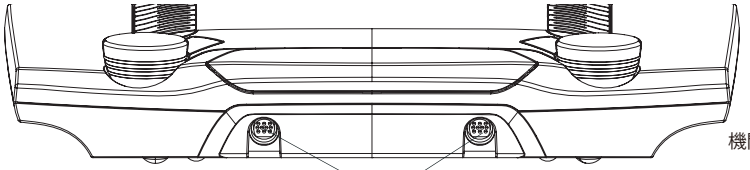
機器裏面



ブースター
6017 / 6015
接続端子

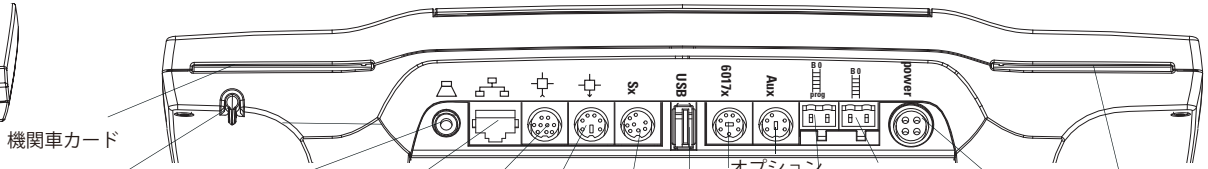
デコーダー
S 88
接続端子

機器前面



Mobile Station 用接続端子

機器背面



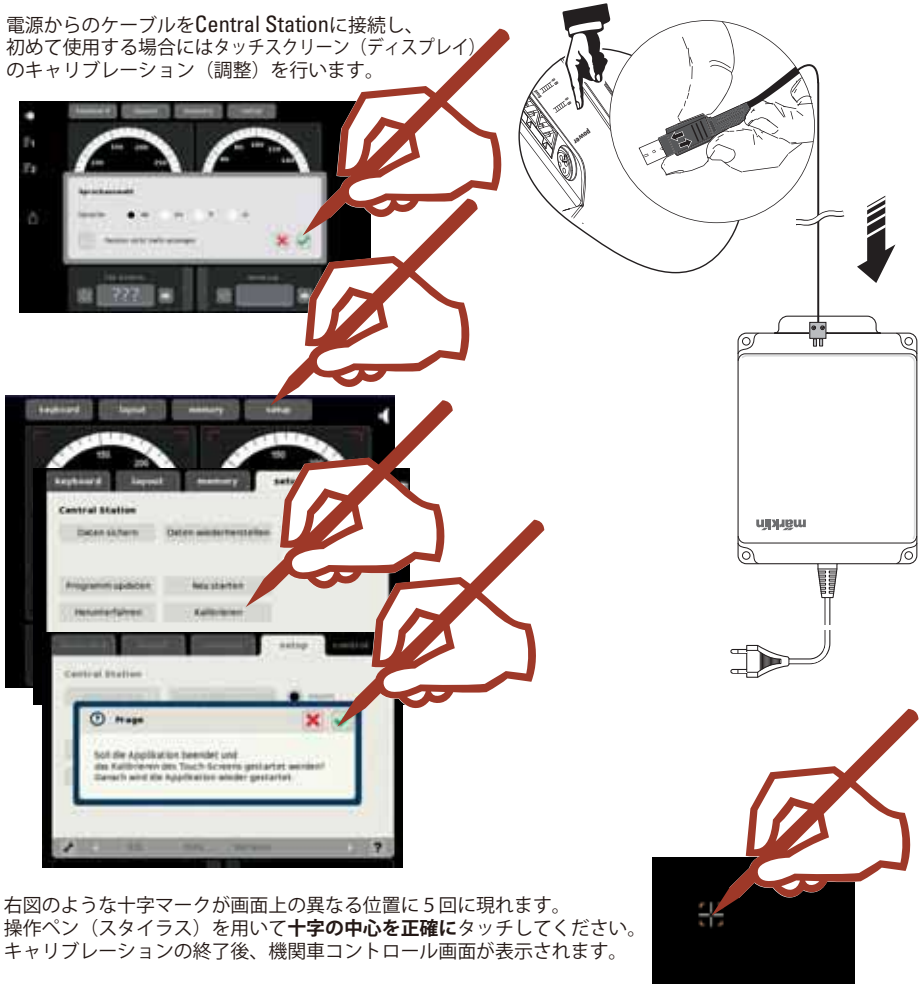
準備と開始

運転の準備

始めるために必要なもの：Ⓜ DCC

ACアダプタまたはトランス、トランスとCentral Station を結ぶ接続ケーブル、
Central Station とレール、車両やアクセサリを結ぶ接続ケーブル。
以下の図の通りに部品を接続します。

電源からのケーブルをCentral Stationに接続し、
初めて使用する場合にはタッチスクリーン（ディスプレイ）
のキャリブレーション（調整）を行います。

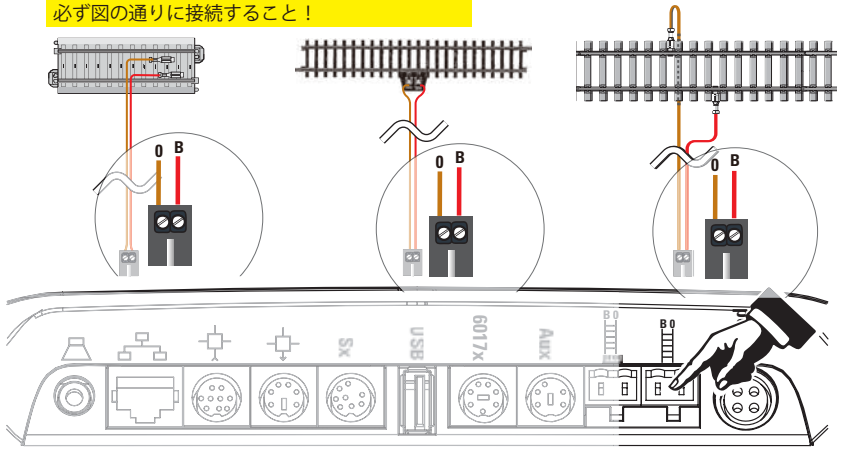


右図のような十字マークが画面上の異なる位置に５回に現れます。
操作ペン（スタイラス）を用いて**十字の中心を正確に**タッチしてください。
キャリブレーションの終了後、機関車コントロール画面が表示されます。

レールへの接続 Ⓜ DCC

Cレールへの接続　または　Kレールへの接続　または　1 番ゲージへの接続と DCC

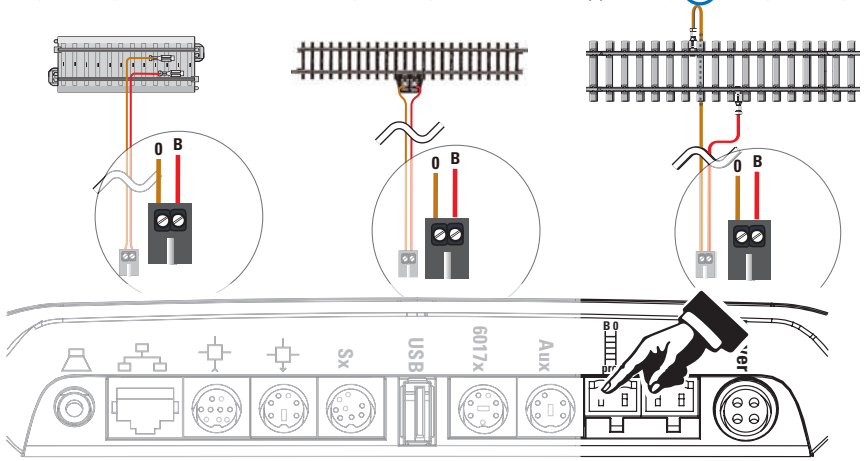
必ず図の通りに接続すること！



プログラミングレールへの接続 Ⓜ DCC

プログラミングレールは、決してレイアウトやアクセサリ類（例えば、照明、ポイントデコーダー、
照明付き車止めなど）に接続しないで下さい。
プログラミングレールは、機関車デコーダーのデータ読み出しやプログラミングと設定をするために
必要なものです。

Cプログラミングレール　または　Kプログラミングレール または 1 番ゲージと DCC プログラミングレール



Ⓜ DCC => 6ページへ

準備と開始

機関車の選択と運転

mfx 機関車の登録 Ⓜ

mfx機関車を認識中. . .

mfx 機関車からのデータが
全て読取られます。

確定します。

mfx機関車は運転準備が整い
すぐに運転出来ます。

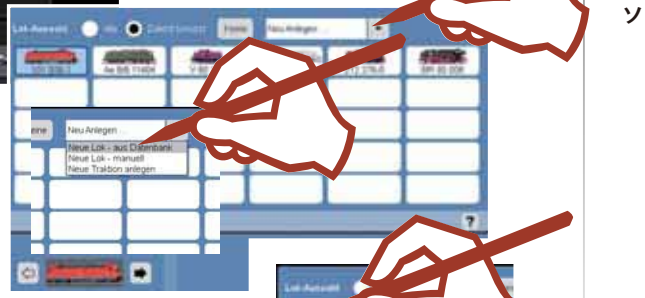
機関車リストの機関車画像表示などが
必要な場合は、12ページ以降に記され
ている追加設定を行います。

機関車の選択 Ⓜ

もし、画面上に表示されている機関車
(アドレス1の101 047-9、アドレス8のBR 85 006)
の１台をお持ちであれば：
右の「機関車の運転」記述手順に従う。

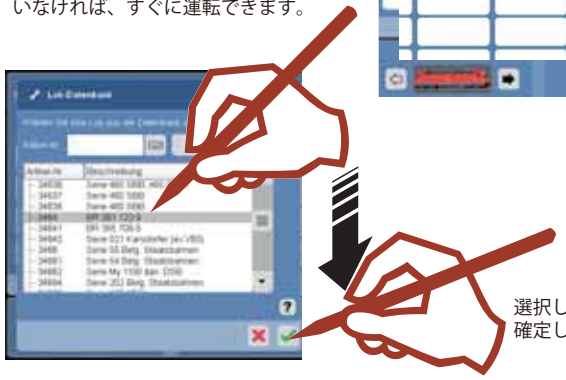
もしくは

機関車画像にタッチし、
以下の手順で 機関車を
選択します。



データベースから運転する１台の
機関車を選択してください。

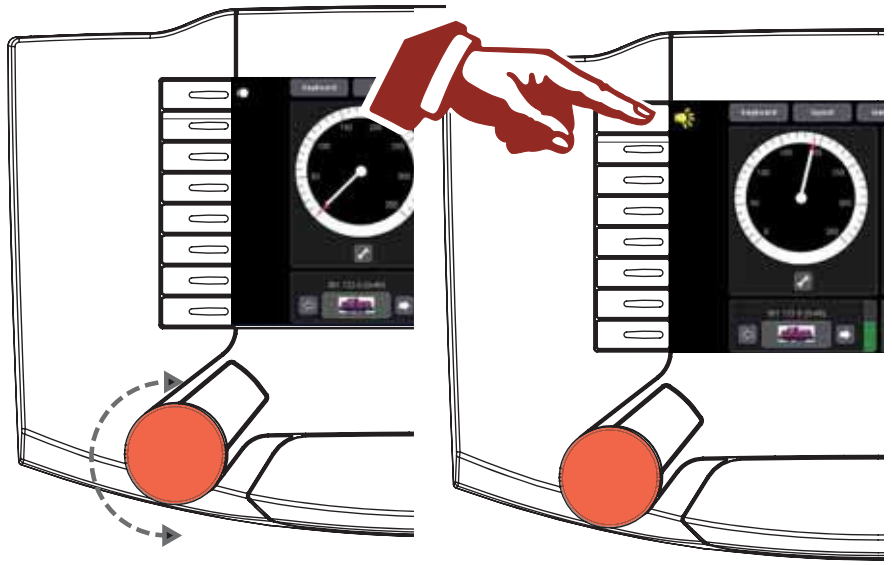
機関車の工場出荷時の設定を変えて
いなければ、すぐに運転できます。



選択して
確定します。

機関車の運転

ファンクションの操作

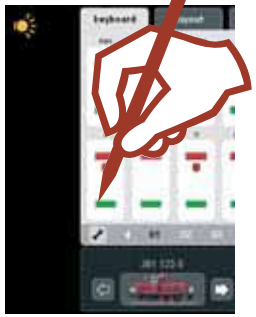


ソレノイドアクセサリの選択と制御 Ⓜ

"keybord"を選択

ソレノイドアクセサリは、
全てのアドレスを事前の
プログラミングなしで
制御できます。アドレスの
昇順に画面上で整理されて
いるので、これにタッチする
ことで制御できます。

制御します



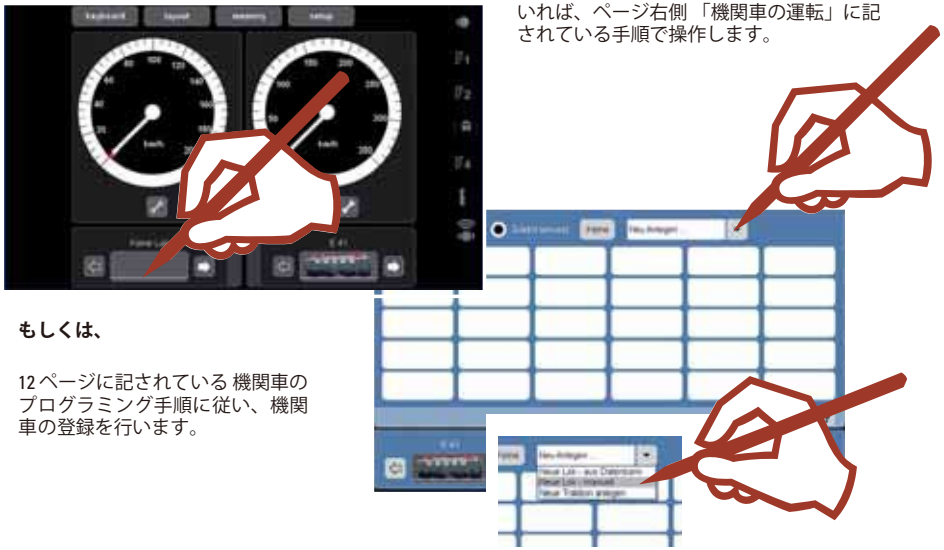
準備と開始

機関車の選択と運転

DCC 基本設定の読込み

“Restore” ボタンにタッチし、”Reset_DCC”を選択し確定します。これによりCentral Stationの基本設定が DCC となります。機関車の登録が容易になります。

機関車の選択



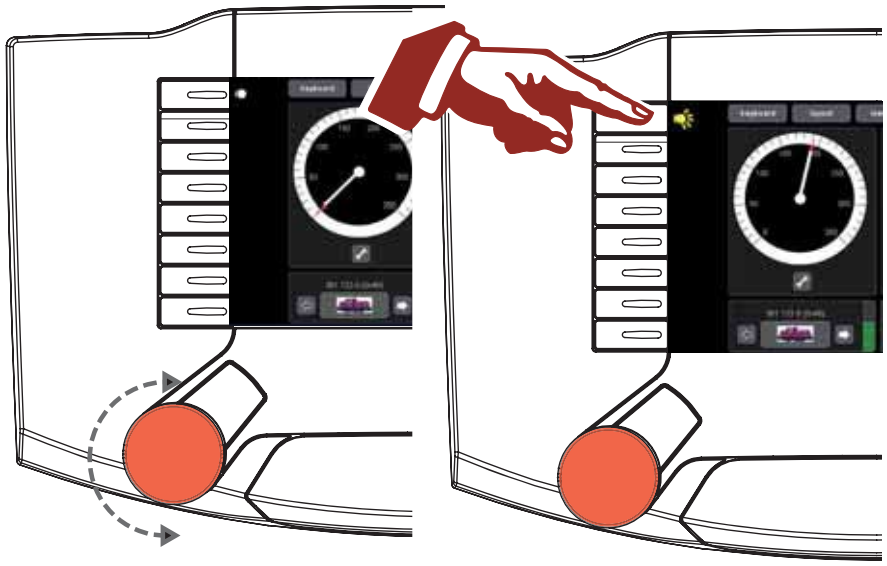
もし、画面に表示されている機関車、または、あなたがアドレス 3 の機関車を持っていれば、ページ右側 「機関車の運転」に記されている手順で操作します。

もしくは、

12 ページに記されている 機関車のプログラミング手順に従い、機関車の登録を行います。

機関車の運転

ファンクションの操作



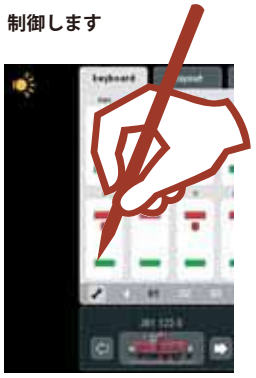
ソレノイドアクセサリの選択と制御

“Keyboard”を選択

2048 アドレスが使用できます。アドレスの昇順に画面上で整理されているので、これにタッチすることで制御できます。

ご使用前にデコーダータイプの設定を確認することをお薦めいたします。=> 21ページ/3-5.1

制御します



はじめに

第４世代となるメルクリン多列車制御システムは、今ここに "Märklin Digital" (メルクリンデジタル)として結実しました。その中でも正しい制御データを発生させるとともに、接続された機器を統制し、快適で使いやすいユーザーインターフェイスを提供する最も重要な機器であるのが Central Station です。
この複雑なシステムの正常な動作は、テストされたメルクリン製品のみを使用することで保証されます。
他のメーカーの製品をCentral Stationとともに使用すると、メルクリンのメーカー保証が無効となります。
他社製品の使用に起因する損傷は、使用者の責任となります。

Central Stationをレイアウトに接続するときは、この取扱説明書の手順と規則に従ってください。他社製品の使用は、電子部品の損傷につながる可能性があります。あなたが「高価」な実験をしない事が、より良い選択です。

Central Stationは玩具ではありません。子供にも鉄道模型用コントローラーとしてのみ扱わせてください。

私達はCentral Stationがあなたの鉄道模型レイアウトに多くの楽しみをもたらしてくれる事を願っております。

Central Stationは、あなたの鉄道模型の制御に限りない可能性をもたらしてくれるでしょう。私達は、この Central Stationを誤りなく使用できるよう、取扱説明書に記されている凡例を参考に、よく練習することをお薦めいたします。

メルクリンサービスチーム一同

Central Station 使用上の注意

Central Station は湿気から遠ざけること。

このメルクリン製品は防水ではありません。 高湿度環境や内部が結露する恐れがある条件下では誤動作の恐れがあります。内部の部品や電子回路の腐食により致命的な故障につながります。

Central Station に衝撃を与えないこと。

この機器に衝撃や強い振動を与えると、動作不良につながる恐れがあります。

Central Station を強い温度変化に晒さないこと。

急激な温度変化は筐体内を結露させます。結露を防止するためには、極端な高温や低温環境に移す前に、Central Stationを温度変化から保護した上で移動させてください。

可動部分の取扱いに注意すること。

Central Station のタッチパネルやコントロールノブの操作時には力を入れすぎないこと。

保管

Central Station を下記のような不適な環境下では保管しないでください：
高湿度もしくは風通しの悪い場所。
50°C 以上の高温 (例えば、直射日光の当る場所など) や –10°C 以下の場所。
湿度は、中央ヨーロッパの気候条件 (湿度 60%) 以上にならないこと。

クリーニング

乾いた、または、わずかに湿らせた柔らかい布で糸くずやほこりを除去します。
決してアルコール、シンナーなどの他、強力な洗浄剤を使用しないでください。

技術的特性

60061 / 60101 電源使用時の出力
入力電圧： 最小 14 V= / 最大 24 V
負荷： 走行レール 3 A / 5A
　　プログラミングレール 1.0 A
　　最大 5.0 A
　　最大電力を使用するために、機器のヘルプ機能を参照ください。

画面解像度：800 x 480 ピクセル、16 ビットカラー

可能な接続

電源
プログラミングレール
Mobile Station (モバイルステーション)
走行レール
ネットワーク：イーサネット
USB：マウス、キーボード、メモリースティック
ブースター：6015、6017、60174
フィードバックモジュール：S88
Aux：現在使用できません
Output：Central Station 60213/60214/60215、Terminal 60125 もしくは Connect 6021との接続
Input：2 台目以降のCentral Station 60213/60214/60215との接続
SX-Bus： (現在使用できません)
ヘッドフォンまたはアクティブスピーカー (現在使用できません)

技術情報：

USBポートは、フェライトコアでシールドされた標準のUSBケーブルのみ使用することができます。

デジタルプロトコル：

下記のデジタル制御方式をサポートします：
メルクリンモトローラ、 mfx
NMRA/NEM 規格準拠のDCC

ソフトウエア：

CSのソフトウエアパーツは、GPLソフトウエアライセンスの対象です。

これらソフトウエアのソースコードは、CDもしくはメルクリンのホームページからCDイメージをダウンロードすることでメルクリンから無料で入手できます。

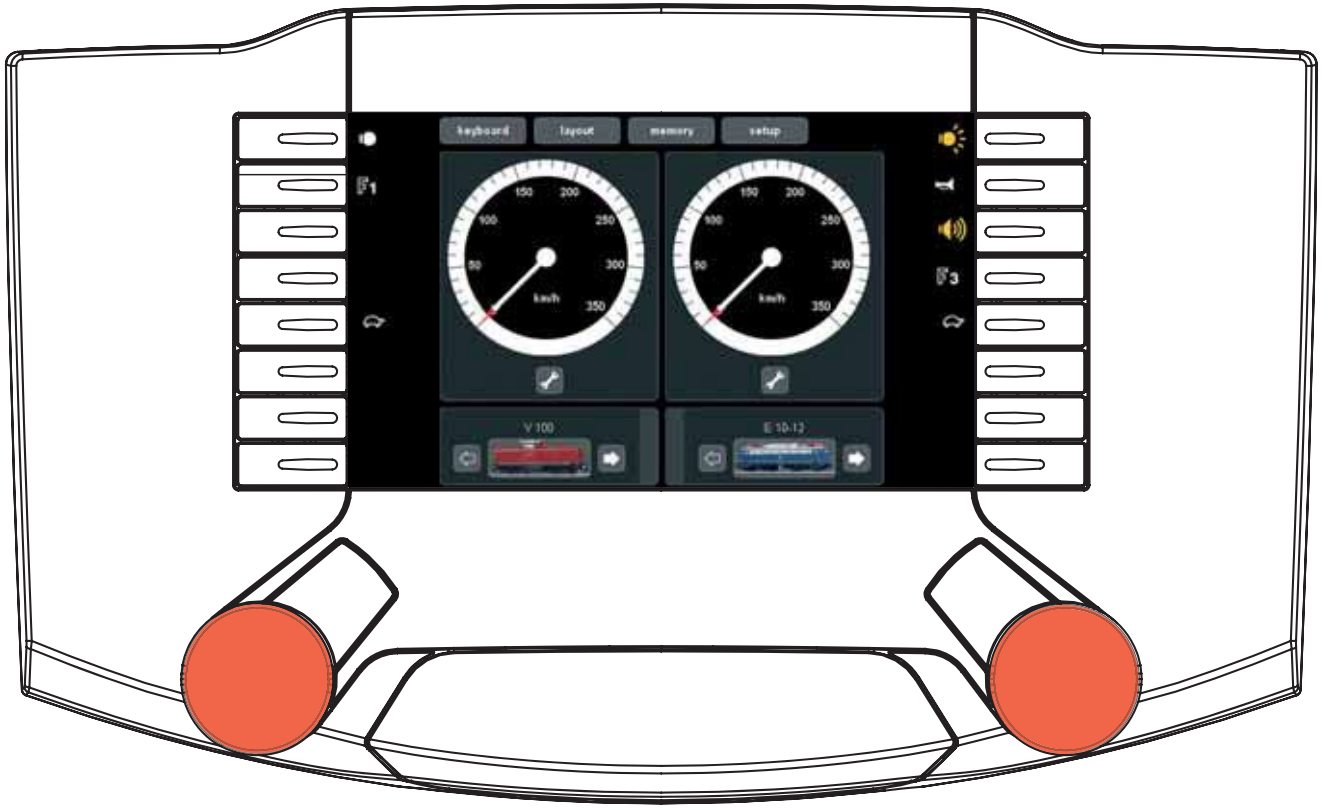
より詳細で最新の情報は、当社のウェブサイト "www.maerklin.com" 上で見つけることができます。

もしエラーや不具合が起こってもCentral Stationは開かないでください。問題の機器をメルクリンのサービス部門、あるいはウェブサイトに掲載されているサービスセンターへ送付してください。

機器を開くと、製品保証および保証請求の対象外となります。
個人、企業、顧客に関わらず、機器を開けた場合は、発生した故障や損傷が機器を開けたことが原因で発生していないことを立証する責任があります。

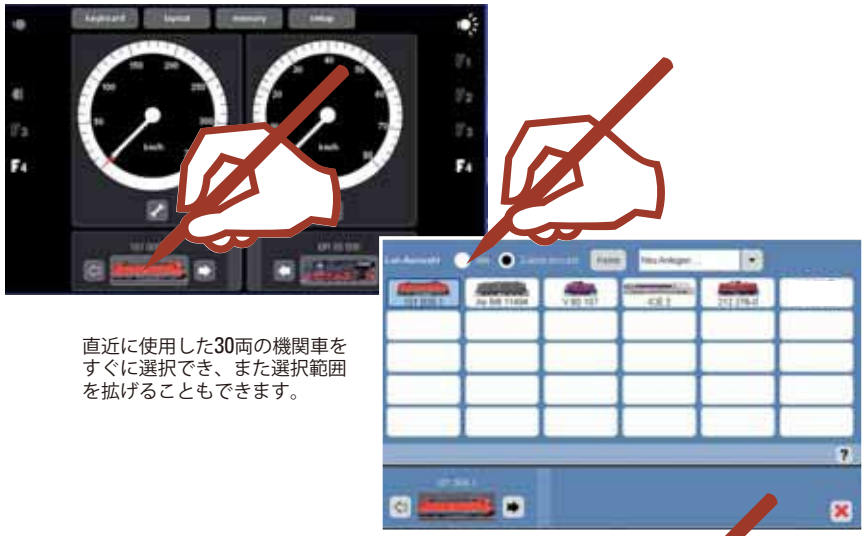
Control

運転 • 登録 • 管理



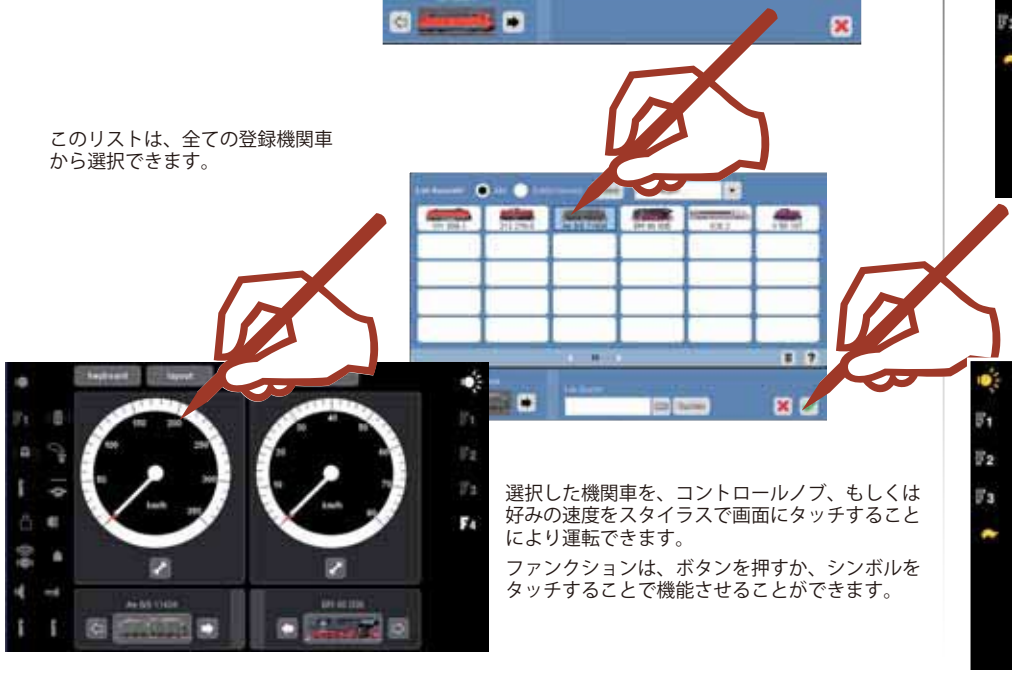
“Control” モードでは、車両を登録、運転、管理できます。

選択と運転 Ⓜ DCC



直近に使用した30両の機関車をすぐに選択でき、また選択範囲を拡げることもできます。

このリストは、全ての登録機関車から選択できます。



選択した機関車を、コントロールノブ、もしくは好みの速度をスタイラスで画面にタッチすることにより運転できます。

ファンクションは、ボタンを押すか、シンボルをタッチすることで機能させることができます。

mfxデコーダー搭載の機関車 Ⓜ

自動認識、機関車リストへの自動登録

mfxデコーダー搭載の機関車をプログラミングレール、もしくは動作中のレイアウトに載せてください。以下の図の通り、機関車は自動的に登録されます。機関車画像も名前とともに登録されますが、ない場合もあります。画像や名前の登録には、13 ページ以降に記された追加の編集が必要になる場合もあります。

mfx機関車を認識

mfx機関車のデータを完全に読込む

確定

mfx機関車は運転準備完了し、確認することができます。

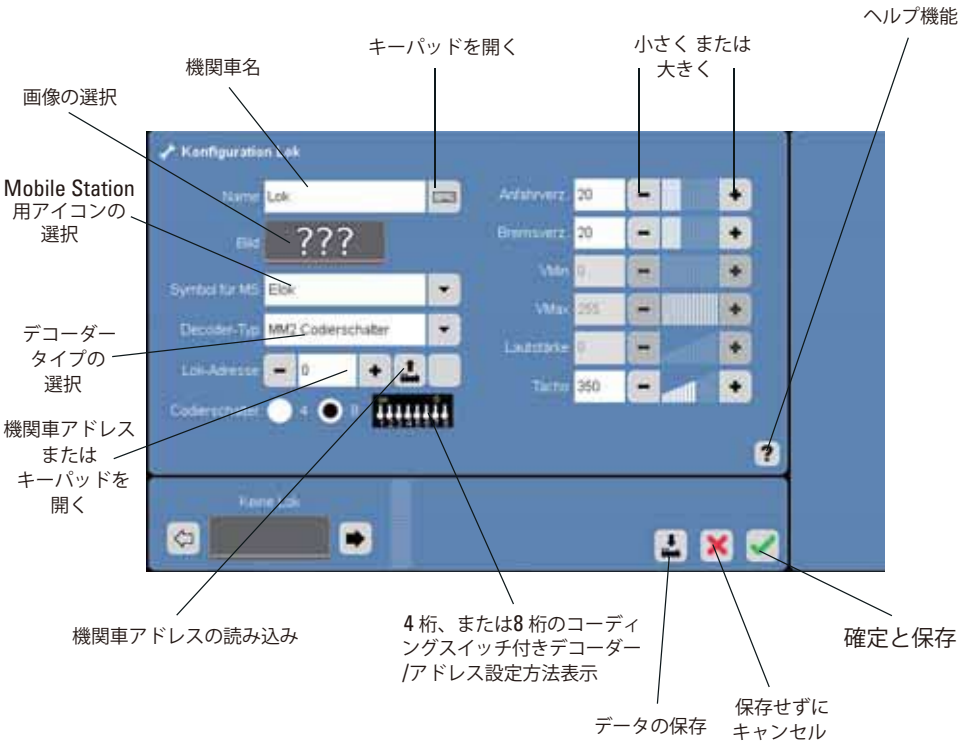
必要な場合は、13 ページ以降に記されているように、機関車リストにある機関車への追加設定をお薦めします。

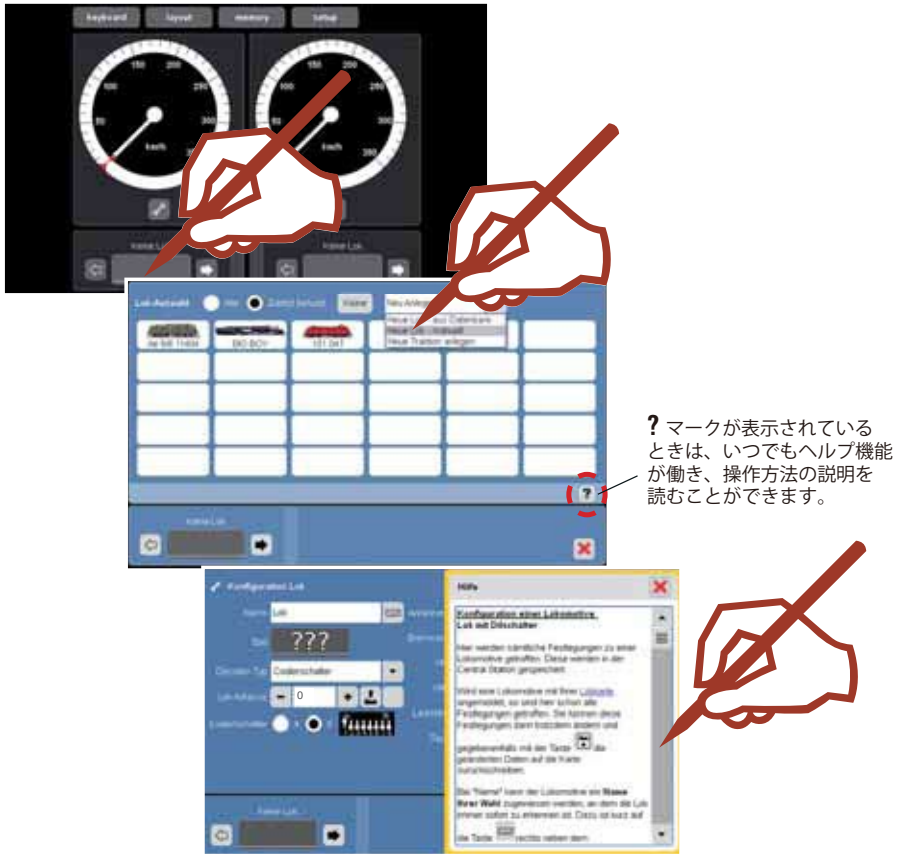
登録： Ⓜ DCC

新規マニュアル登録：概要と準備 Ⓜ DCC ⇨ 10 ページ

コーディングスイッチ付デコーダー搭載機関車 Ⓜ ⇨ 11 ページ

プログラミング型デコーダー搭載機関車 Ⓜ DCC ⇨ 12 ページ





? マークが表示されているときは、いつでもヘルプ機能が働き、操作方法の説明を読むことができます。

ヒント：

基本的には、上記メニューで選択出来る各種デコーダーを混用して運転出来ます。 アドレスごとに、どのプロトコルを割り当てるか、また、どのデコーダによってサポートされているか決めることができます。

機関車名の入力： 例：BR 03

3 x ←

画像の選択

あなたの機関車に
最適な画像を
選択します。

選択の確定

コーディングスイッチ付きデコーダー搭載機関車 Ⓜ

プログラミング型デコーダー搭載機関車 ⇨ 12 ページ

プログラムレール上に機関車を置き
アドレスを読込みます。

もしくは

デコーダーアドレスを
入力します。

←

3

追加的に、Central Station上で機関車の各種走行特性を変更し設定することができます。
設定は、“ - ”と″ + “ のボタンで調節します。
例として：加減速遅延（この設定は、CSのコントローラに反映され、コーディングスイッチ付きデコーダーでは、反映されません）。
速度計の設定では、Central Stationのディスプレイ上だけのものであり、機関車デコーダーの最高速度設定には影響を与えるものではありません。

デコーダーの設定をチェック
してください。

全ての設定が終了したら、確定して
データを保存します。

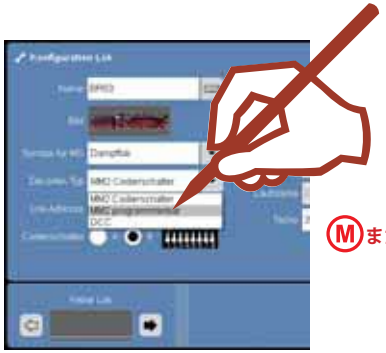
機関車は、機関車リストに
取り込まれました。

13 ページ の「機関車の各種設定」項には、更なる設定の説明が記されています。

プログラミング型デコーダー搭載機関車： Ⓜ DCC

読込みと書込み

プログラムレールに機関車を置く！



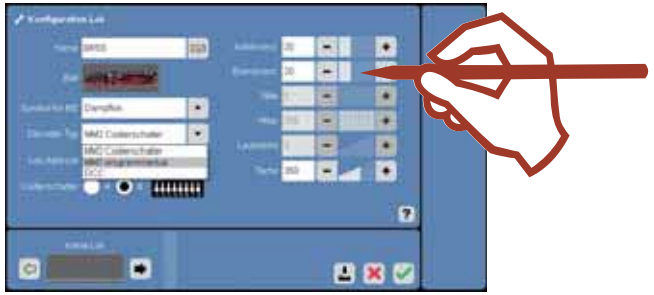
デコーダータイプの選択

Ⓜ または DCC

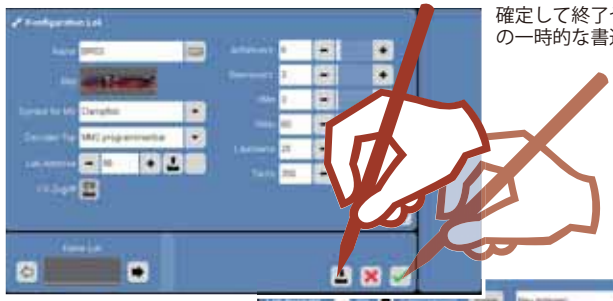
Ⓜ DCC

デコーダーに設定されている
アドレスを読込みます。

確定する



追加的に、Central Station上で機関車の各種走行特性を変更し設定することができます。
設定は、“ - ” と ” + “ のボタンで調節します。例として：加減速遅延時間や速度計表示。



確定して終了や機関車デコーダーへの一時的な書込みの作業。

新たに書込まれた機関車は登録されました。13 ページ以降には、追加設定や変更の方法が記されています。

機関車の各種設定 Ⓜ DCC

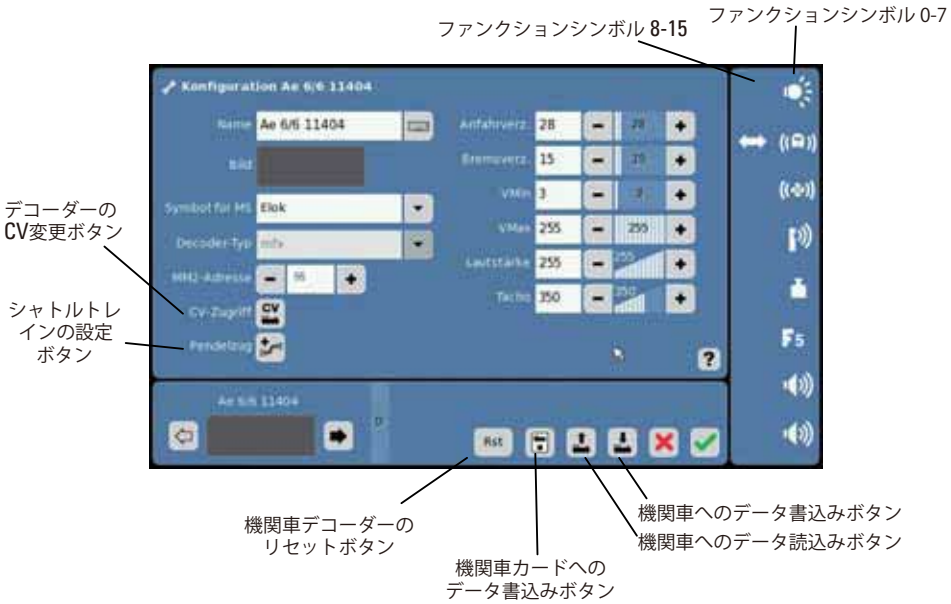
シンボルマーク、ファンクション、そして各種設定の追加/変更を行います。この機能はすべてのデコーダータイプで行うことができます。ただし、この機能はデコーダーそれぞれのできる範囲でその設定や機能の処理が異なります。例として、以下にmfxデコーダー搭載機関車の多彩な可能性について示しています。

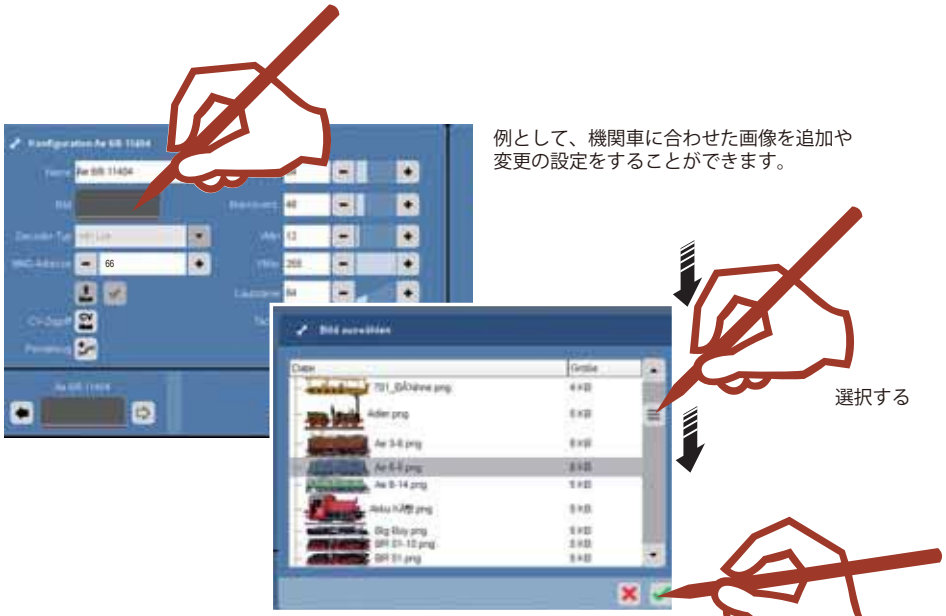
設定する機関車を左右どちらかのコントローラー に呼出します。図のように機関車の設定モードのボタンにタッチします。

設定モードでは、機関車の追加的な設定のための複数のアイコンなどが用意されています。

CV (パラメータ) の変更

! それぞれの機関車デコーダーが、すべてのファンクションや走行特性に対応していないことに注意してください。そのデコーダーがサポートしている情報を機関車の説明書から良く読みとってください。





例として、機関車に合わせた画像を追加や変更の設定をすることができます。

選択する

確定する

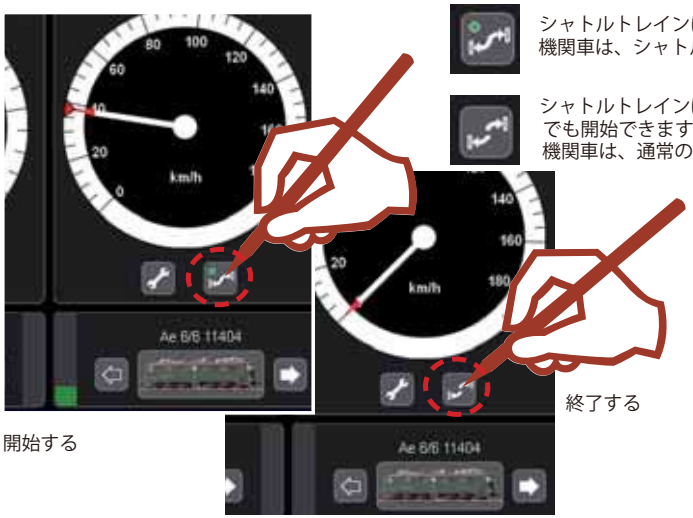
シャトルトレインの設定

機関車をシャトルトレインの設定にすることができます。

S88 デコーダーのコンタクト番号をそれに対応した記入枠に入力し、最高速度と停車時間を設定します。

確定する

この機関車のシャトルトレイン機能を消去します。



シャトルトレインはすぐに開始されます。
機関車は、シャトル以外には使えません。

シャトルトレインは、準備状態で、いつでも開始できます。
機関車は、通常の運転ができます。

開始する

終了する

ファンクションシンボルの変更と追加 Ⓜ DCC

選択する

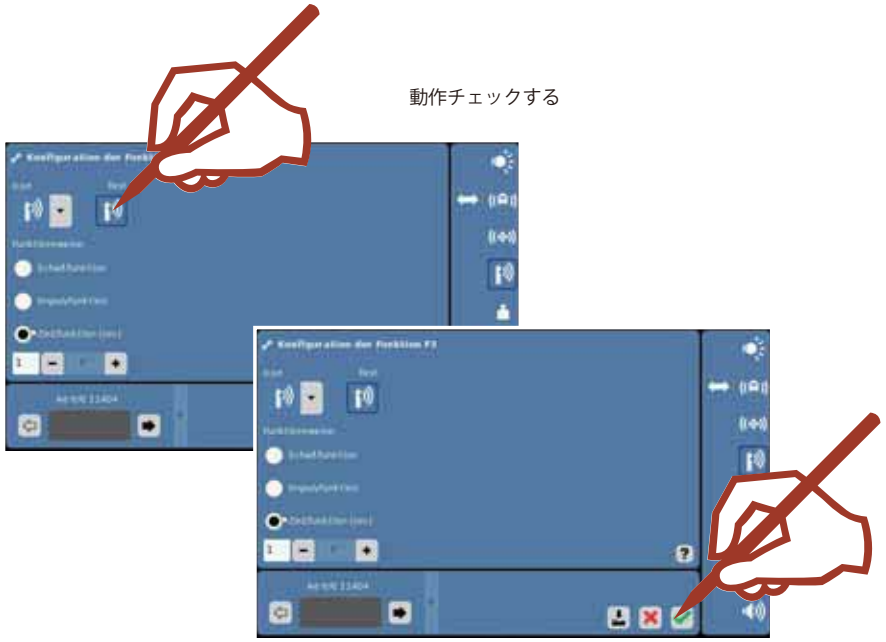
ファンクションモードの機能を割り当てることができます：

- スイッチファンクションの オン/オフ (例：照明)
- パルスファンクション (例：テレックスカプラー)
- タイムファンクション (例：警笛)

ファンクションシンボルを選択

ファンクションモードを選択
例：タイムファンクション

時間を選択



動作チェックする

確定する

CV (パラメータ) の変更 Ⓜ DCC

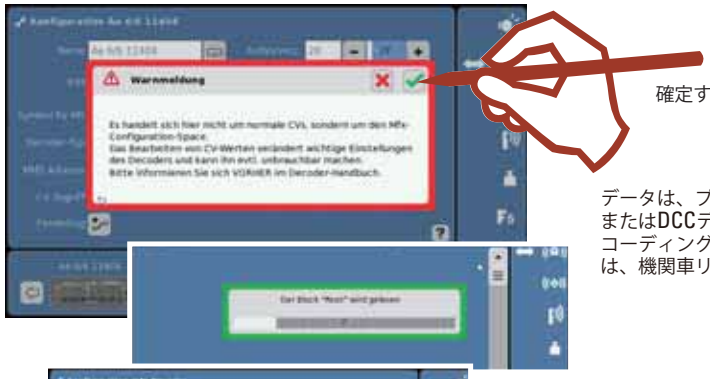
! それぞれの機関車デコーダーが、すべてのファンクションや走行特性に対応していないことに注意してください。そのデコーダーがサポートしている情報を機関車の説明書やデコーダーの取扱説明書から良く読みとってください。

ここでは、機関車デコーダーのタイプによってCVの設定変更が可能です。
⚠ ただし、デコーダーの動作に関係する多くの部分での関与、また誤った設定はデコーダーへの不必要な設定変更につながります。

デコーダーにリセット機能がある場合のみ、機関車は工場出荷状態に戻ります。

機関車のデータを機関車カードに書込みます。

注意事項： 機関車アドレスの設定 (CV 1) やスピードステップ数 (CV 29) については決してCV の変更を行わないでください。これらについては、機関車の各種設定から簡単なプログラミングの変更ができます。



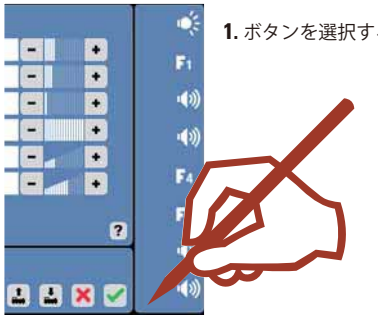
確定する、または破棄する。

データは、プログラミング型、mfx、またはDCCデコーダーへ転送します。コーディングスイッチ付きデコーダーは、機関車リストに含まれます。

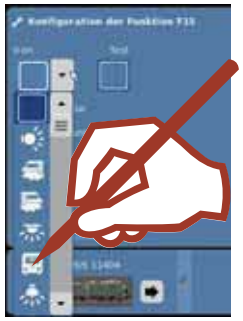
選択する
変更する
確定する

例：ファンクションマッピング (mfx)

設定されている以外のファンクションの追加



1. ボタンを選択する

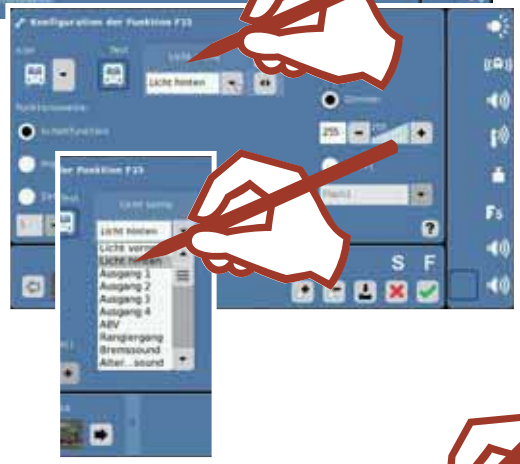


2. シンボルを選択する

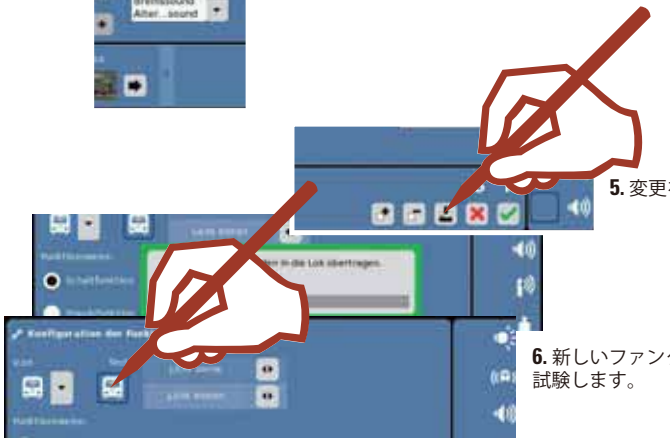
選択

3. ファンクションを追加する

4. 選択されたファンクションの変更



ファンクションの変更や特性を割り当てる(調光、点滅など)。



5. 変更を保存する

6. 新しいファンクションを試験します。

更なるファンクションの登録、変更、保存ができます。

データを転送し、設定モードを閉じる。

停止時、または走行時のファンクション

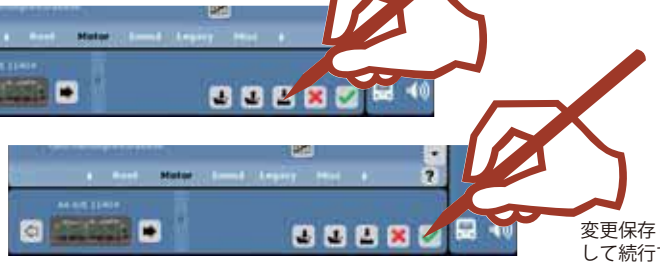
ここでは、停止時 (S) や走行時 (F) のみ機能させることができます。設定は、前述の手順1-6 の場合と同じです。

ABV (加減速遅延) パラメータ例

選択する

選択する

ここで選択された CV は、直接デコーダーに保存され、例えばブレーキモジュールの減速値や加速値など機関車の走行特性に直接的な影響を与えます。



変更保存し、他の CV 設定を使用して続行するか、または緑色のチェック操作で完了します。

ここで新しく登録した、または変更した機関車は Central Stationで運転できます。

重要な注意事項！

電源を落とす際には、安全のために「システム終了」 機能を使って全てのデータを保存してください。突然の電源オフは、データ喪失を招く危険があります。

本線上プログラミング (POM)

本線上プログラミング (POM) とは、機関車がレイアウトを走行中にプログラミングを行う特殊な方法です。つまり、機関車はプログラムレール上ではなく、停止する必要もありません。POM は、使用しているデコーダー でサポートされ(デコーダーの取扱説明書を参照) POM 経由で個々の設定がプログラムされなければなりません。機関車特有の CV 表を保存し、呼び出すことができます。
POM では、デコーダー / 機関車からのデータ読み込みはできません。

注意事項：機関車アドレスの設定 (CV 1) やスピードステップ数 (CV 29) については、決してCV の変更を行わないでください。これらについては、機関車の各種設定から簡単なプログラミングの変更ができます。

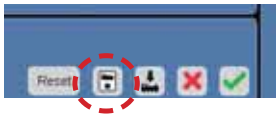
機関車カードの機関車の読込み

書込み済みの機関車カードから機関車データを読込んだり、機関車カードに書込んだりできます。

読込み：
図のようにカードリーダーに機関車カード差込みます。データは機関車リストに読込まれ、すぐに機関車を走らせることができます。

!カードのICチップがある面を下にして差込むことに注意してください。

書込み： (設定モード時のみ)
機関車カードを右図のようにカードリーダーにしっかり奥まで 差込みます。
下図のシンボルマークを押します。



機関車データは、機関車カードに転送されます。

重連編成の登録 Ⓜ DCC

重連は少なくとも 2 台の機関車から成り立ちます。それはより多くの機関車での重連組成も可能です。
重連編成の機関車の台数制限は必要電力と、その区間の供給可能電力の兼ね合いで決まります。

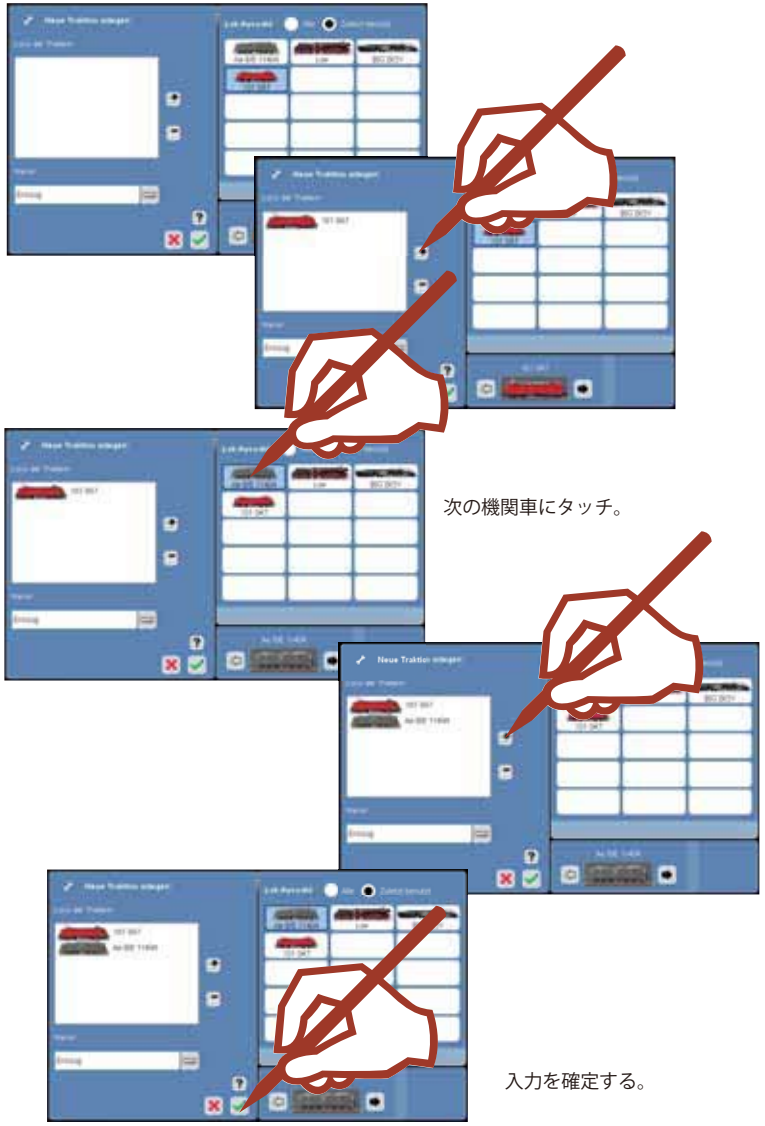
! 重連を構成する機関車は、互いに走行特性が似ている必要があります。

← 既存の文字を消去します。

新しい名前を入力します。例：„Erzzug“

E R Z Z U G

重連にする最初の機関車をリストに加えます。



次の機関車にタッチ。

重連の機関車に加えます。

入力を確定する。

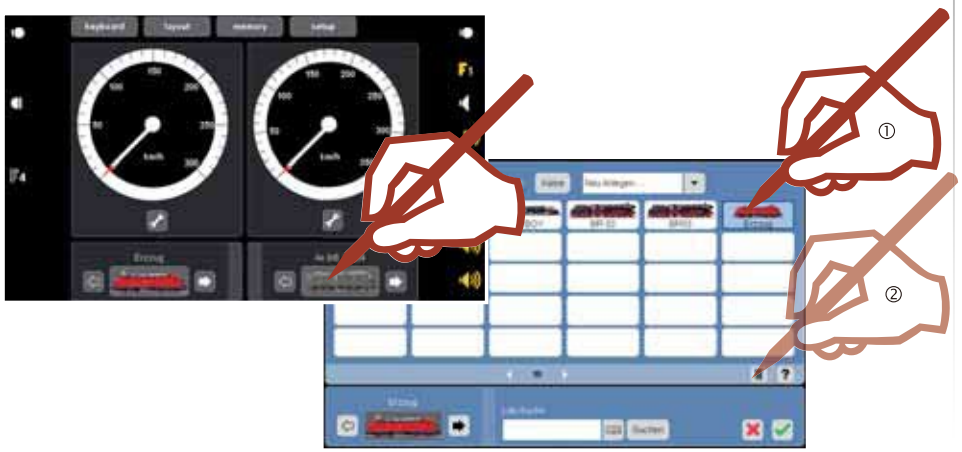
重連編成が機関車リストに取り込まれました。

重連編成は、ここで Control 画面に呼び出せます。

重連編成を走らせることができます。
2 つめのコントローラーは、別の機関車か、別の重連編成を制御できます。

工具ボタンで重連の設定ができます。上記の 2 つの手順で機関車の追加や削除ができます。

機関車、または重連編成の削除 Ⓜ DCC



機関車や重連編成が機関車リストから削除され、復活できません。

事前にデータのバックアップを取らないと、消去したデータは再生できず、消失し、新しい登録と再設定が必要です。

! 時々 “setup” モードのデータバックアップを繰り返してください。データの変更時は常にバックアップを取るべきです。バックアップを取ってあれば、前回の状態に戻すことができ、機関車リストも復活します。

Central Stationの終了： Ⓜ DCC

Central Station の終了前に „Setup“モードに移ります。「システム終了」を選択し、確認メッセージのチェックマークで確定します。 機器は、終了処理を開始します。画面の機関庫の扉が閉じたら Central Station の電源を外してください。

Keyboard

アクセサリの制御●設定

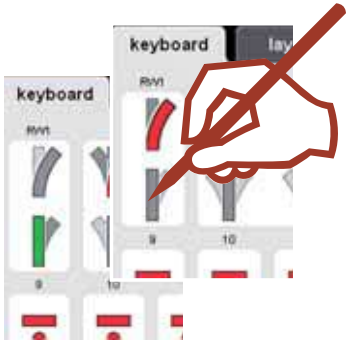
“Keyboard”モードでポイント、信号機、転車台及びトラバーサなど；合計で Ⓜ 320、もしくは DCC 2048 アドレスのソレノイドアクセサリの制御と管理ができます。

標準ポイントと信号機の制御 Ⓜ DCC

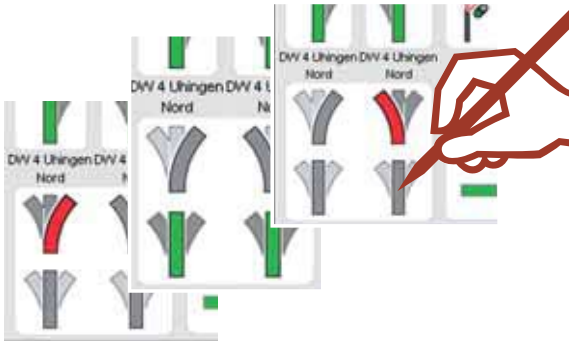
Central Station を使用開始すると、すぐに登録されているプロトコルの全てのアドレスが利用でき、標準的な操作画面で各種ソレノイドアクセサリを制御できます。操作には、付属のスタイラスをお使いください。(図を参照）。

ヒント：より見やすい画面にするために、関連づけたソレノイドアクセサリのシンボルと名称の設定をお薦めします。次項を参照のこと。⇨ソレノイドアクセサリの設定

ポイントと信号機の制御

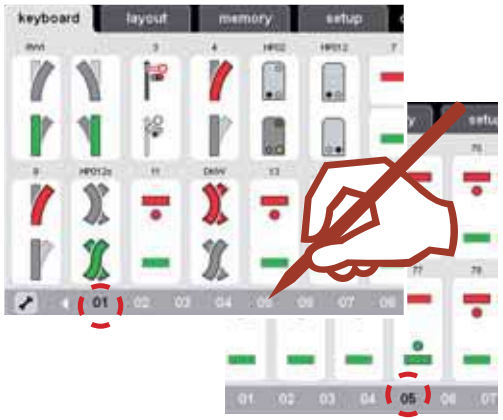


複数のアドレスを持つポイントや信号機の制御

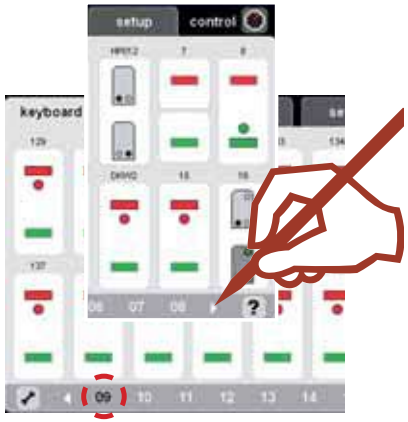


“Keyboard” は、各16 アドレスを配列した Ⓜ 20 ページ、または、DCC 128 ページで構成されており、アドレスの操作位置を変更することはできません。

ページ画面の移動



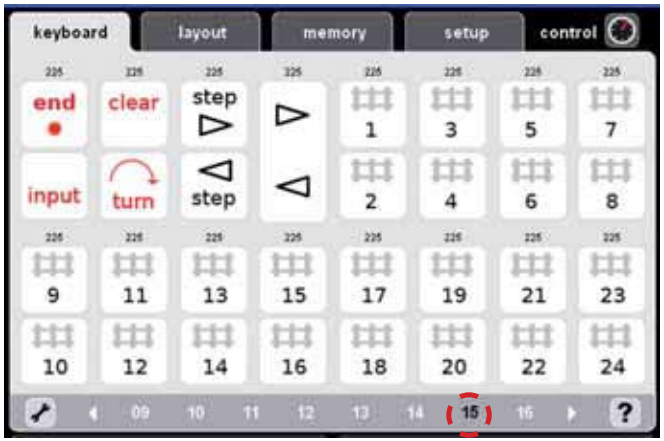
もしくは



転車台

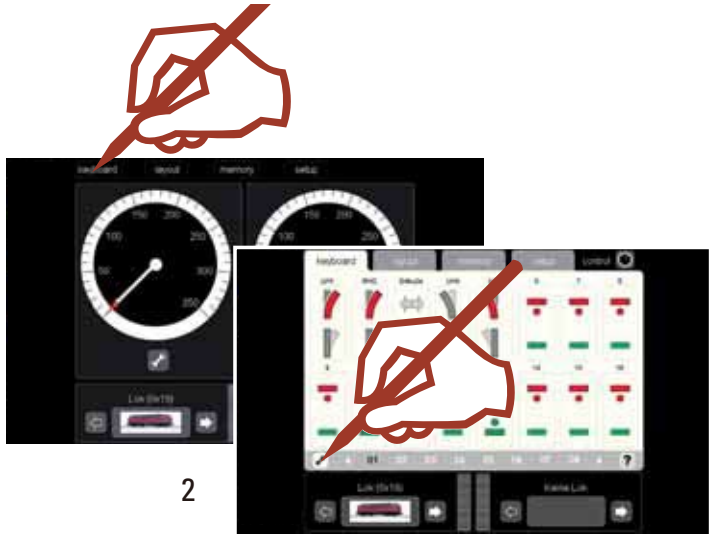
“Keyboard” 15 ページ画面は、転車台 7686 用にあらかじめ設定されています。転車台は、続く15 アドレスが自動的に指定されているので注意してください。

デジタル転車台を使用しない場合には、これらの設定を削除することで他のソレノイドアクセサリのために転車台のアドレスを空けることができます。



Keyboard (キーボードモード)：
ソレノイドアクセサリの設定 • ステップバイステップ Ⓜ DCC

1



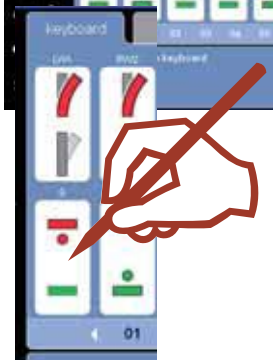
2

Keyboard (キーボードモード)： ソレノイドアクセサリの設定 • ステップバイステップ Ⓜ DCC

希望するアドレスの選択

3

4



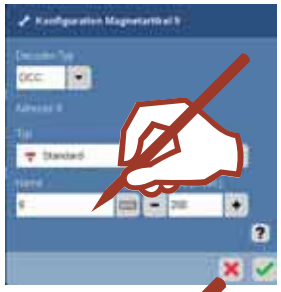
5 Ⓜ

ポイントデコーダーの設定を検証する。

5.1 Ⓜ

5 DCC

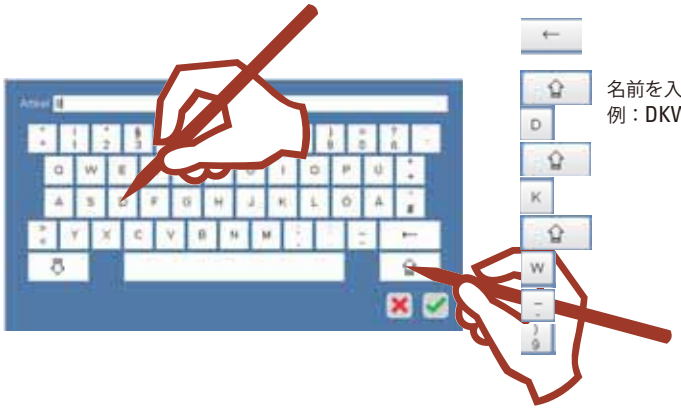
5.1 DCC



DCC ポイントデコーダーをプログラミングする際は、必ず デコーダーの取扱説明書の指示に従ってください。

6

7

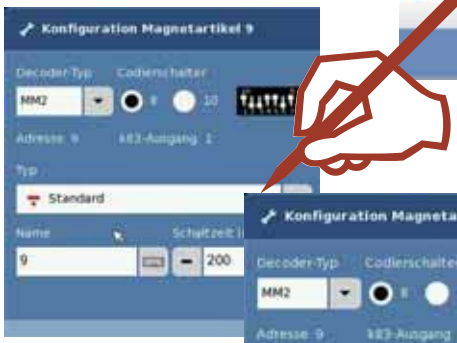


名前を入力する
例：DKW-9

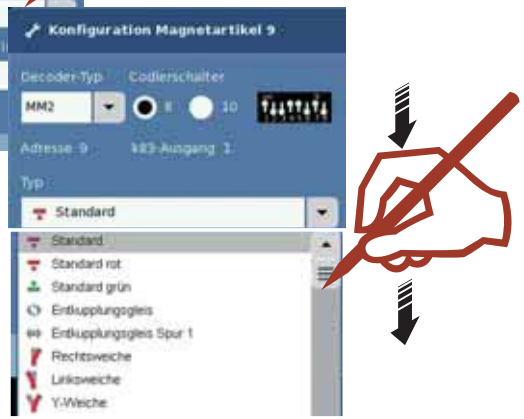
8

入力を確定する

9



10



11

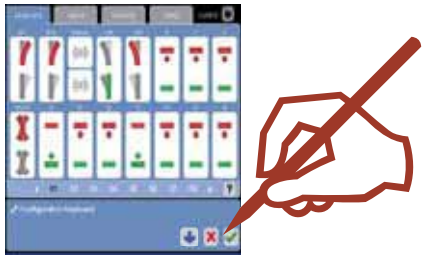
12

切換時間の設定：推奨時間は、
200 ms - 500 ms (ミリ秒)

13

入力を確定する

14

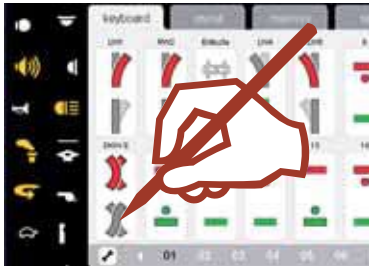


確定、もしくは
新しいアクセサリ
を登録する。
(ステップ ⇨ 4 へ)

22

アクセサリの動作を確認する

15



15.1

ポイントのデコーダー k 83 (6083または、 60830) に接続では、ポイント/信号機の設定表示が実際と異なる場合は、青色のケーブルの接続を入れ替えてみてください。

! 正しいアドレスに設定されている にも関わらずソレノイドアクセサリが動作しない場合は、レールに接続するフィーダーケーブルの極性を確認してください。 (赤 = B / 茶 = 0)

重要な注意事項！

全てのデータを保護するために、Central Station の終了前には必ず"setup"モードにある「システム終了」機能を通してから電源を落としてください。
突然に電源を落とすことで直前に変更されたデータが喪失することがあります。

ヒント：

基本的にアクセサリデコーダーはプロトコル混在の使用が可能です。 アドレスごとにどのプロトコルを使用しているかを見極められるように考慮してください。これによりメルクリンのデジタル色灯式信号機は、DCC 環境のレイアウトでも使用できます。

デジタル色灯式信号機のプログラミング

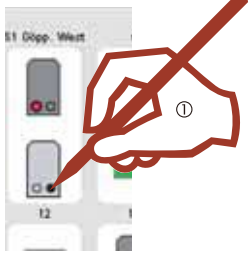
! プログラミング途中には、列車運転をしないでください。30 秒以上入力されないとプログラミング工程が終了されますので注意してください。

"Keyboard"モード画面上に、前項のステップ 1-13 に記されている手順と同様に信号機の設定を行ってください。切換時間は 1000 ms (ミリ秒)に設定します。 ボタンをタッチし、続いて現れるメッセージを確定します。

"Stop" ボタンを押してレールへの給電を遮断し、信号機をレールもしくは、プログラミングレールに接続します。この時、ボール紙にはさまれた導線(プログラミングブラケット)を、デコーダーの下側に装着することを忘れないでください。信号機を接続したら、"Stop" ボタンを押して再びレールに給電します。

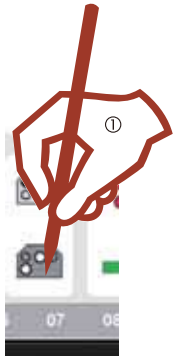
信号機はプログラミングモードとなり、信号機画像は交互に点滅します。Central Station の "Keyboard" 上のデジタル色灯信号機の画像にタッチします。

76391 Hp1
76395



または

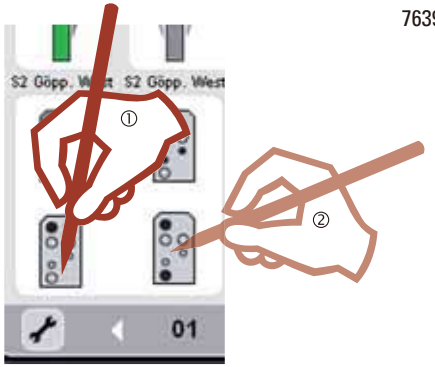
76371 Sh1
76392 Sh1



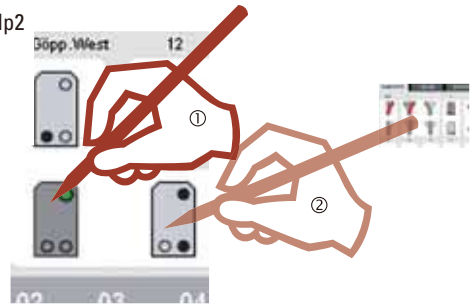
2 灯式信号機のプログラミングは、これで完了です。より詳細な手順については以下に記されていますので合わせて参照してください。

多灯式信号機の場合は、色灯が更に順次変化します。操作手順については、以下の図例を参照してください。

76394 Hp1/Sh1



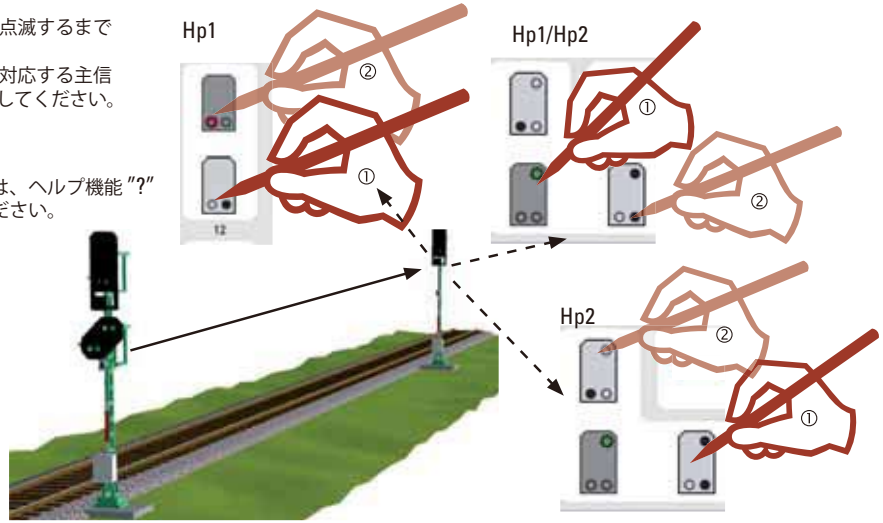
76393 Hp1/Hp2
76397



遠方信号機が主信号機ののマストに架装されている場合は、遠方信号機についてもプログラミングを行います。

遠方信号機が点滅するまで待機します。
遠方信号機に対応する主信号機にタッチしてください。

詳細については、ヘルプ機能 "?" を参照してください。



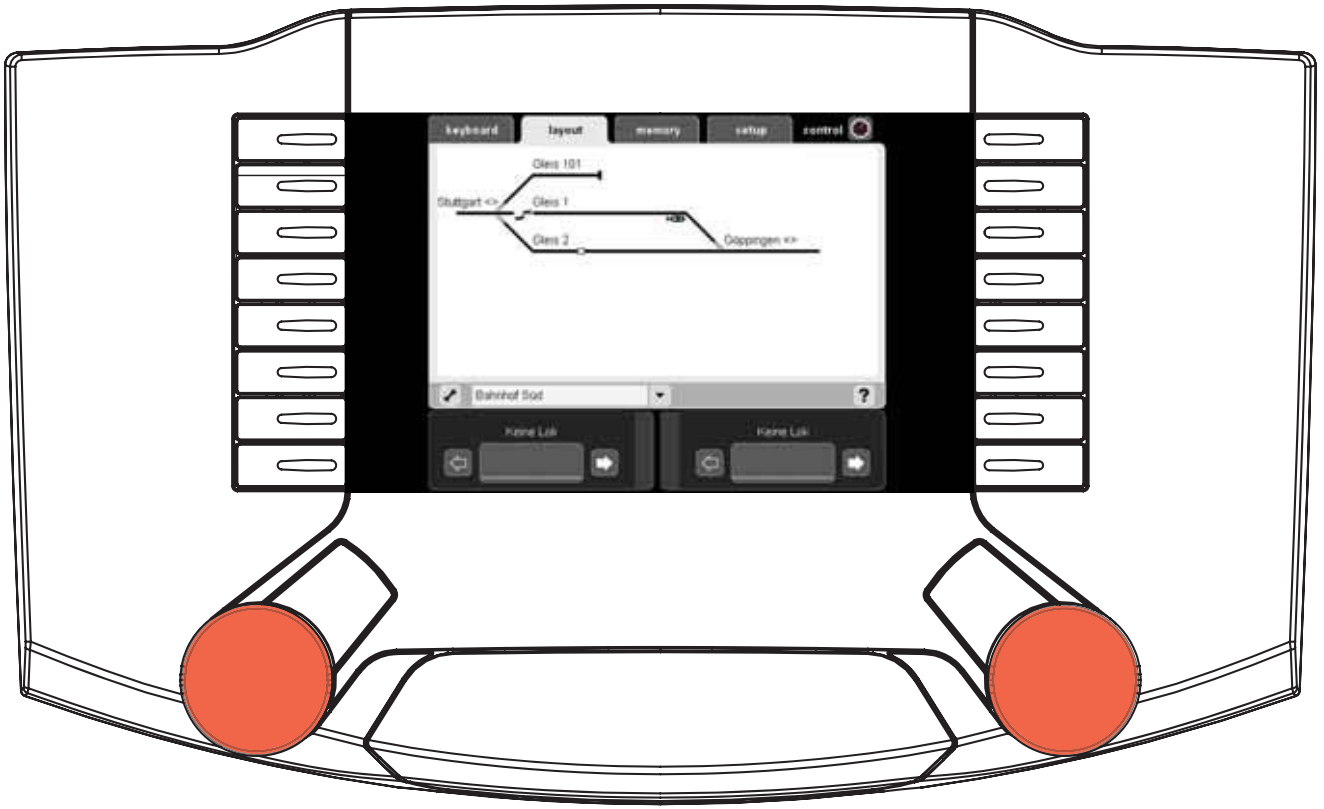
信号機は、信号機画像間での切換えが開始されると、プログラミングのプロセスが完了となります。Stop ボタンを押しプログラミングブラケットを外します。再度 Stop ボタンを押すことで CS は通常運転が行えます。

!プログラミングブラケットは、アドレス変更するときのために保管しておいてください。

アクセサリー設定モードにしてください。切換時間は 250 ms (ステップ 12)に変更します。これは、動作時間として充分な切換時間です。操作モードでプログラムされた信号機の動作を確認します。必要に応じてプログラミングのプロセスを繰り返します。

Layout

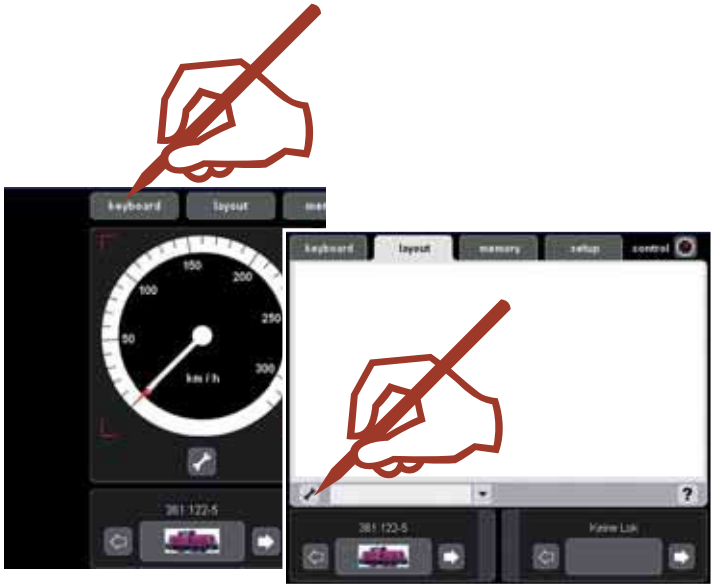
レイアウトの設計●制御



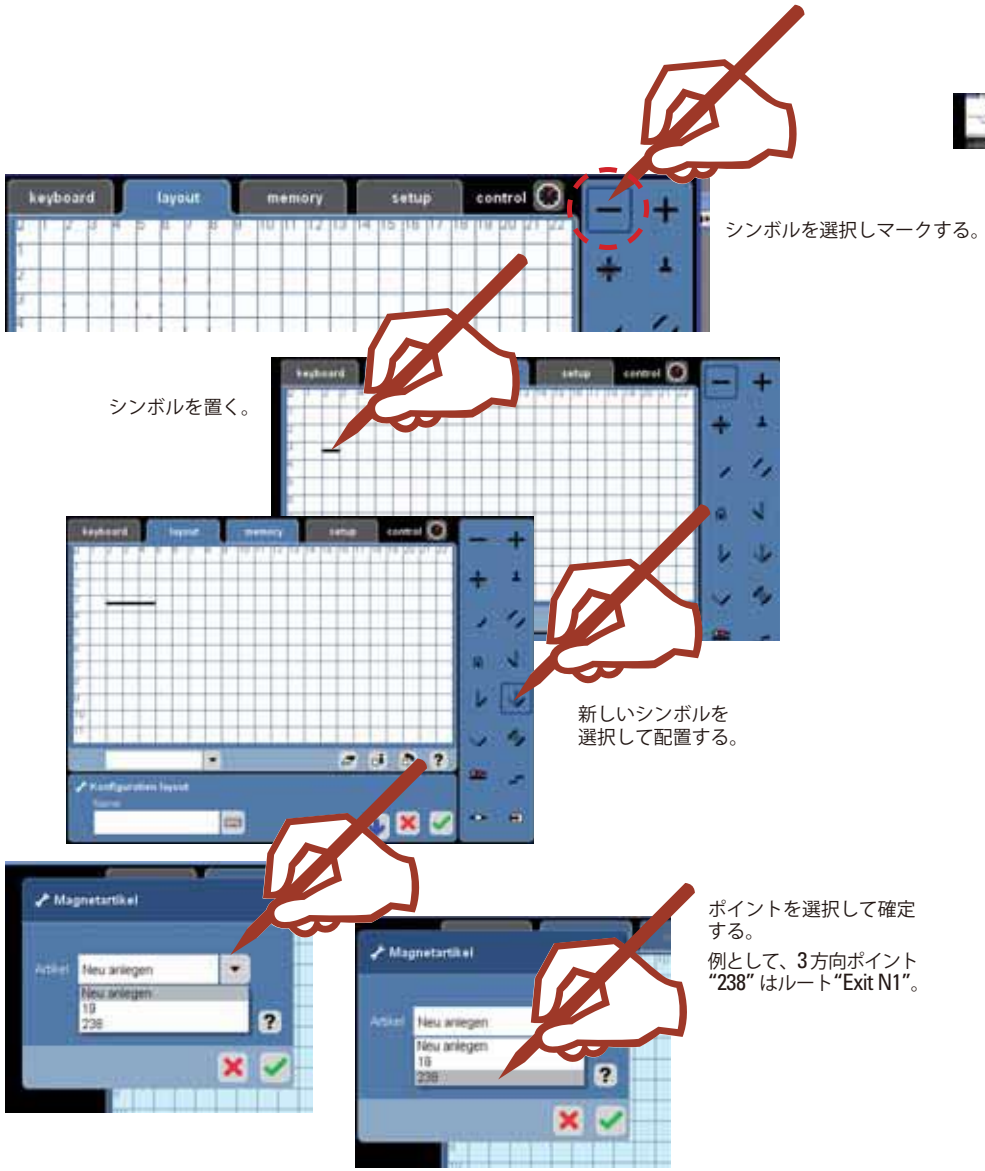
レイアウトの設定 Ⓜ DCC

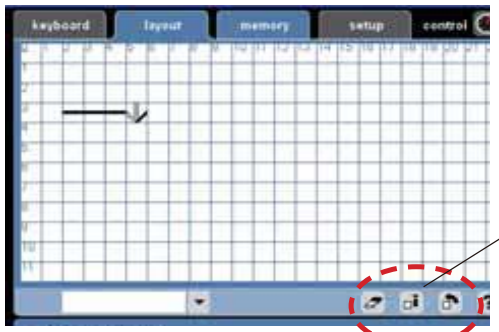
“Layout” モードは、鉄道模型のソレノイドアクセサリとルートの設定と動作の簡素化をするものです。ここでのレイアウト設定後は、シンボルマークを押すことにより、ポイント、信号機、ルートを制御できます。
この機能は、複数のレイアウトページの設定も可能です。

レイアウトを設定する前に、該当するソレノイドアクセサリの設定を “Keyboard” で設定しておくことをお薦めします。



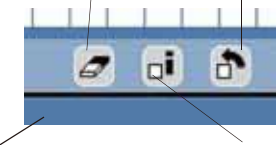
シンボルの詳細な説明は、ヘルプ機能で閲覧できます。



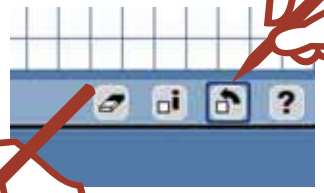


シンボルの
消去

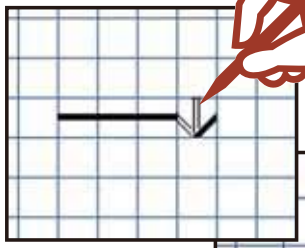
シンボルの
回転



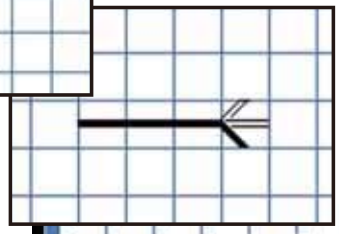
ソレノイド
アクセサリの
情報と設定変更。

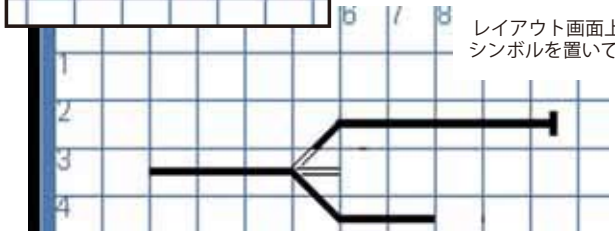


「回転」シンボル を選択する。



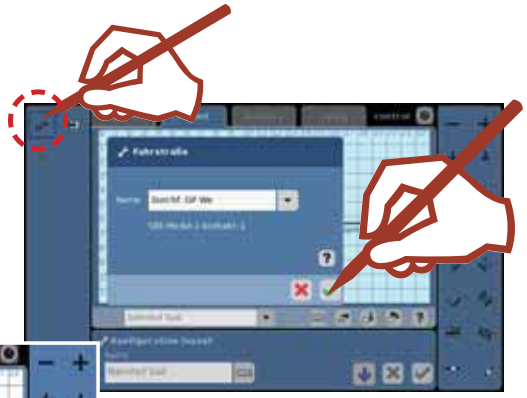
シンボルがレイアウト画面上
で適切な位置になるまでタッチ
し続けます。

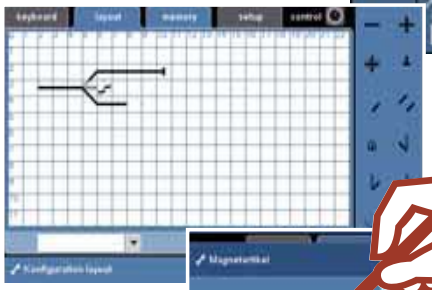




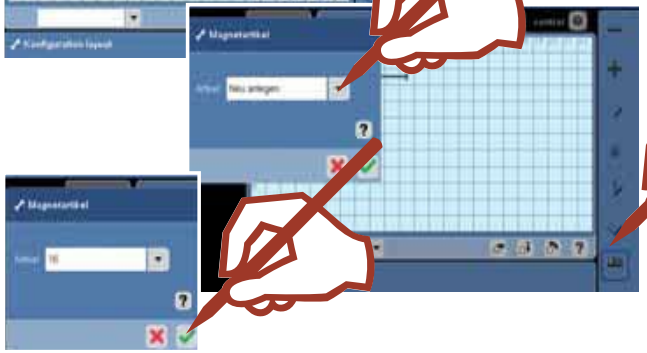
レイアウト画面上で続けて
シンボルを置いてゆきます。

ルートの配置：
例では、1 つだけの ルートだけを配置しています。
複数のルートがある場合、矢印ボタンを使って好みのルートを選ぶことができます。選択を確定します。

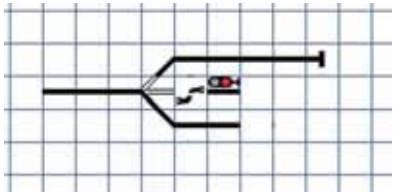




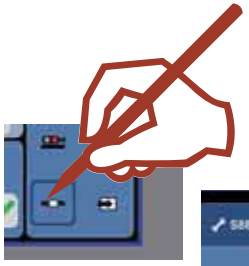
ルートが配置されました。



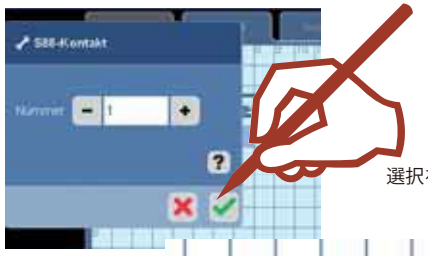
信号機も同様に
ソレノイドアクセサリから
選択します。



信号機が
配置されました。

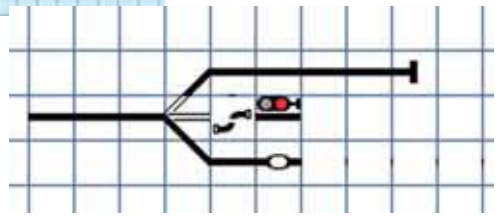


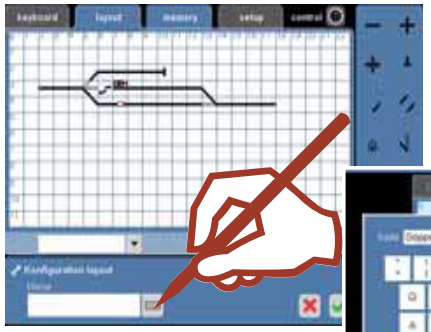
ルートで S 88 コンタクトを動作させたい時も、同様にレイアウトに配置させます。



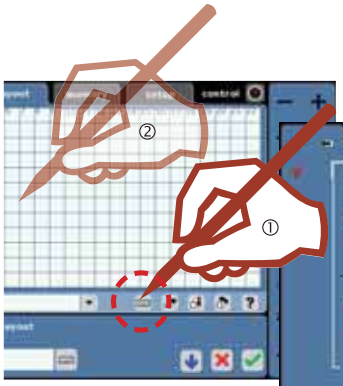
選択を確定する。

S 88 コンタクトは配置されました。画面上に設定することでコンタクトを手動で制御させることができます。

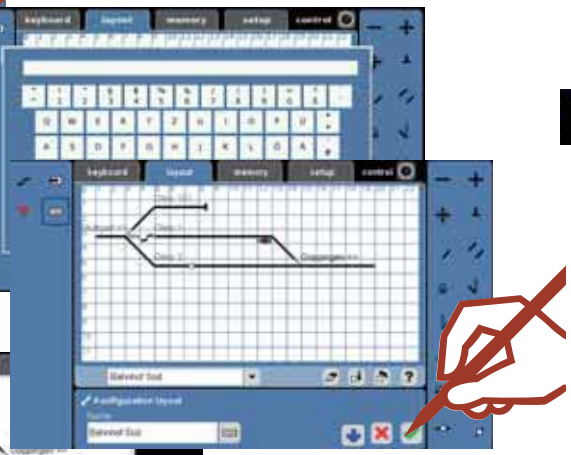




ルート(レイアウトページ) にキーパッド使ってネーミングし、確定します。



レイアウト画面上にテキストを入力できます。 例：Gleis 1



完成したレイアウト画面を確定し、保存する。

レイアウト画面上での制御

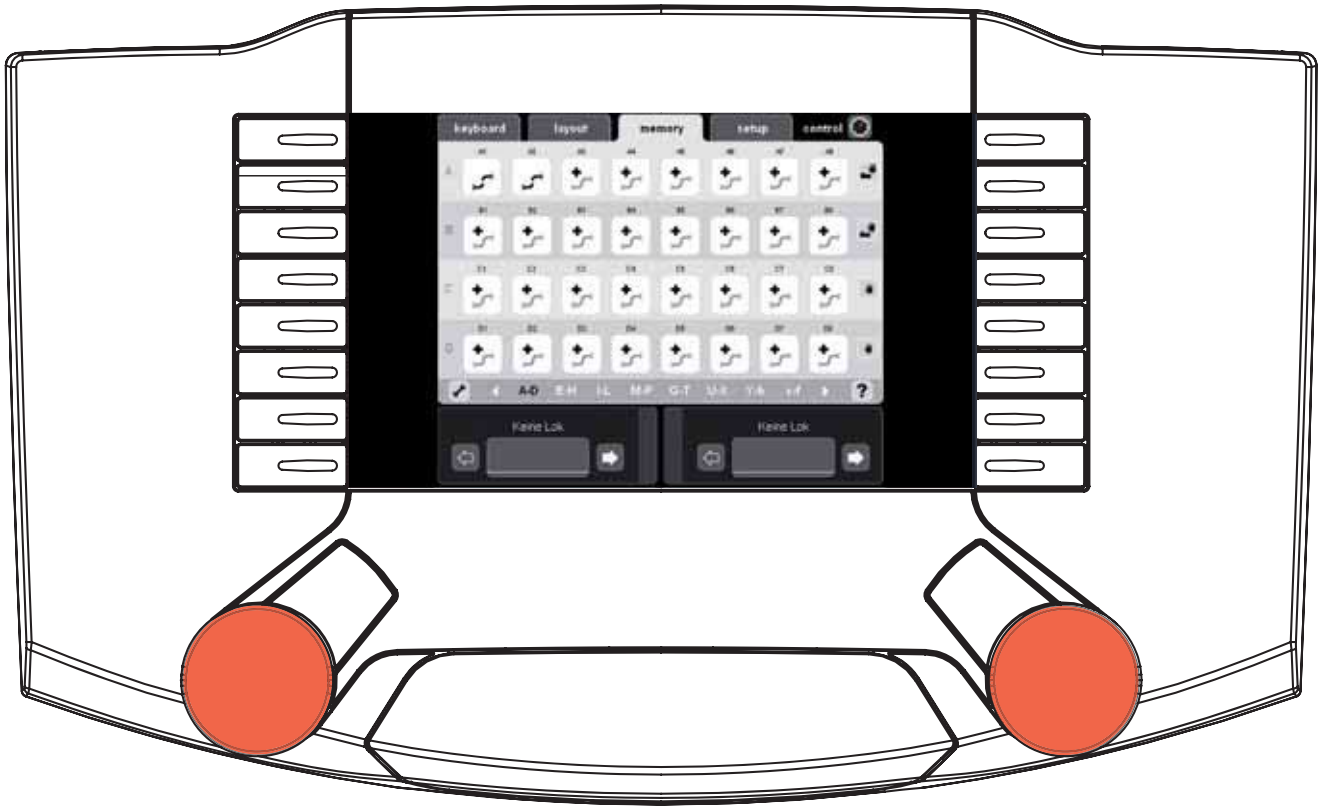
レイアウト (路線) 画面完成後、単体のソレノイドアクセサリ、もしくはルートをシンボルにタッチすることで制御できます。レイアウト画面からそれぞれのソレノイドアクセサリの状態を把握することができます。

重要な注意事項！

全てのデータを保護するために、Central Station の終了前には必ず”setup”モードにある「システム終了」機能を通してから電源を落としてください。
突然に電源を落とすことで直前に変更されたデータが喪失することがあります。

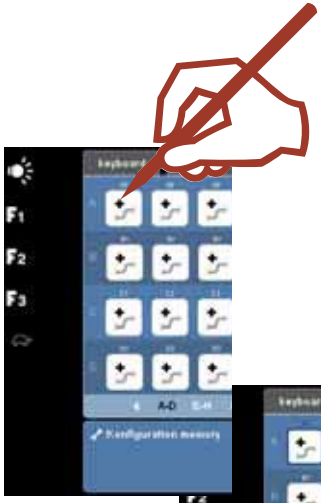
Memory

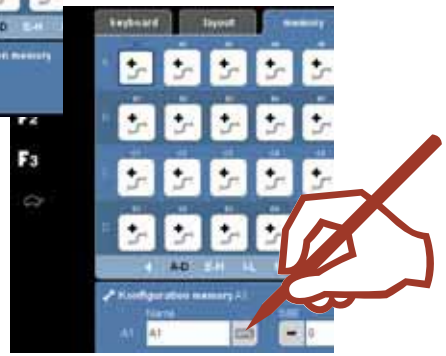
ルートの設定・制御



ルートの設定 Ⓜ DCC

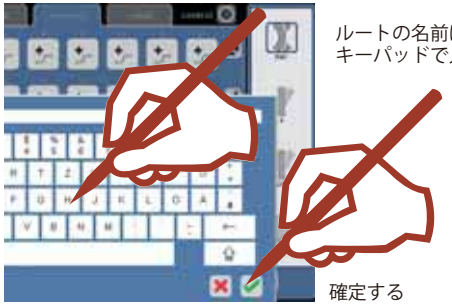
“Memory”モードでは、鉄道模型のルート設定と制御を行います。”Memory”モード”の画面は 16 ページ用意されています。
“Memory”モードを設定する前に、“Keyboard” モードを該当項目の説明に従って設定しておくことをお薦めします。
ルートは、1 つのボタンを押すことで、複数のソレノイドアクセサリが制御されます。自動制御では、鉄道模型が自動的に特定の行程を制御するために、S 88 コンタクトとルートが組み合わされます。事例として、閉塞制御と車両基地制御があります。更に詳細な情報は、ヘルプ機能、またはメルクリンマガジンで参照できます。





ヒント： ルート名には、例えば、駅名には南北や左右などに区分けして簡潔で短い名前をつけます。この名前の使用は 1 回限りです。

例：
Exit N1 = 1 番線北から出発



ルートの名前は
キーパッドで入力します。

確定する

“Keyboard” モードに切換えます。

ルート方向のソレノイドアクセサリ
を入力する。

異なる“Keyboard”モードのソレノイドアクセサリを入力できます。
入力する順序は指定されていません。

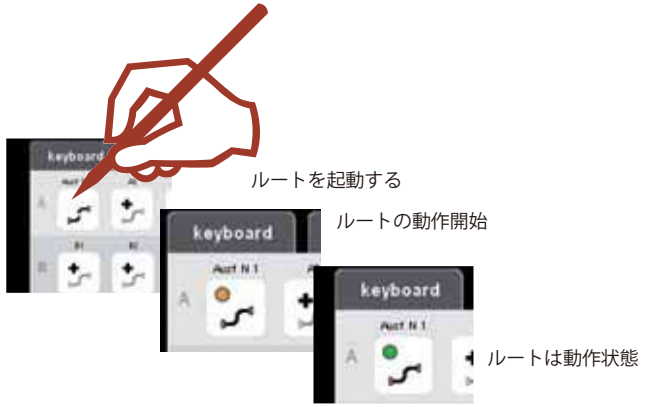
*わからないことや疑問がありませんか？
そういう時は、”?”のヘルプ機能を
利用しましょう。*

ルートは、既存の別のルートを
埋め込むことができます。

ルートは、S 88 を用いて列車により直接起動させることができます。
そのためには、ルートを起動させるS 88 のコンタクト番号を入力させる必要があります。

✅ ルートの設定終了と保存、または
💾 保存して新規走行ルートを登録する。

ルートの制御

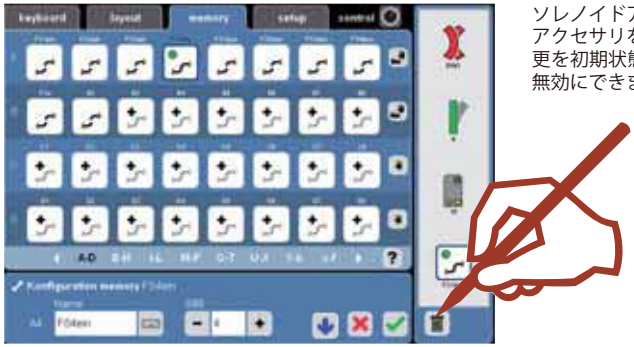


ルートを起動する

ルートの動作開始

ルートは動作状態

ルートの消去



ソレノイドアクセサリは個々に、また全てのアクセサリを消去することで、ルート名の変更を初期状態 (例えば A5) に戻すことにより無効にできます。

重要な注意事項！

全てのデータを保護するために、Central Station の終了前には必ず”setup”モードにある「システム終了」機能を通してから電源を落としてください。
突然に電源を落とすことで直前に変更されたデータが喪失することがあります。

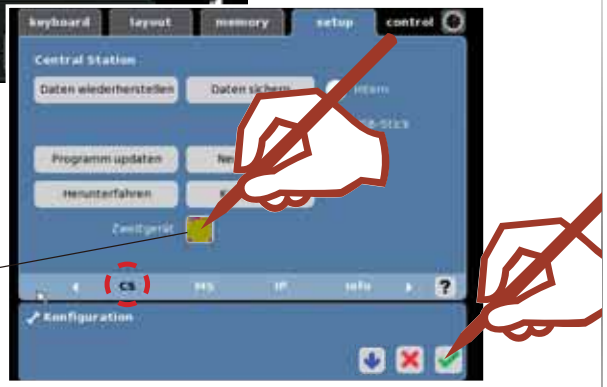
Setup

システムの変更 • バックアップ • 設定

“Setup” モードは、データの復活、バックアップ、アップデート、再起動、シャットダウン、キャリブレーション、そして Central Station の設定を行います。

“Setup” モード Ⓜ DCC

編集モードへの移行



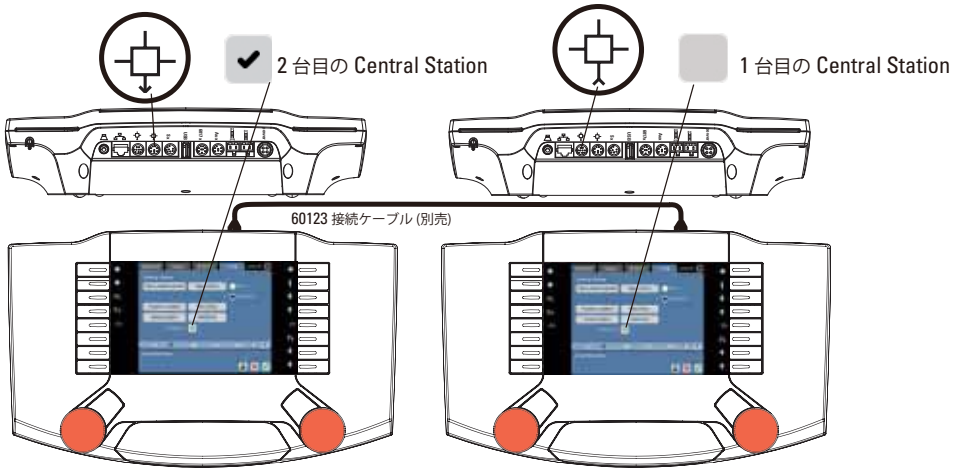
Central Station の可能な動作設定。

☐ この Central Station をメインコントローラとして動作させる場合。

☑ この Central Station を2 台目以降のサブコントローラ として動作させる場合。

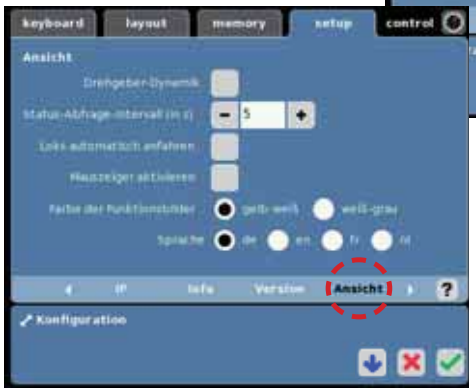
Central Station は、単独でも複数でも使用できます。複数の Central Station を使用する際は、1台をメインコントローラとし、他をサブコントローラとして設定しなければなりません。

2 台目以降のサブコントローラとして設定する場合、新たにメニューの ”CS” を呼出し、メインコントローラの CS と、どの項目に関して同期させるかをここで設定します。
設定後は、それが新たに保存されます。
メイン/サブの接続が切れ、CS が 2 台目以降のサブコントローラとして操作出来なくなった場合、このCS のオリジナルのデータが現れます。



2 台目の Central Station では、機関車リストの再設定が必要です。

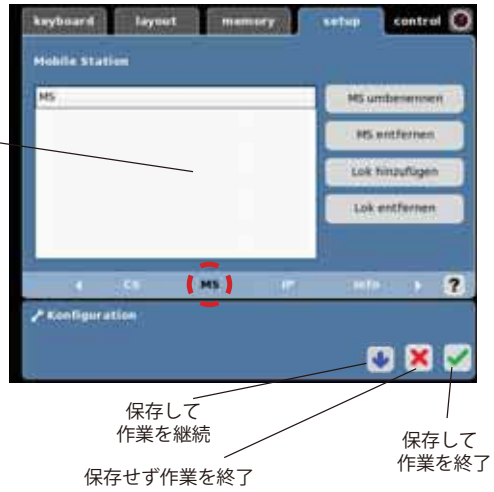
ここでは Central Station を、コンピュータネットワークに接続します。
詳細説明は、ヘルプ機能”?”を参照してください。



このメニューで Central Station の表示を個人の好みに合わせて調整することができます。
例えば、コントロールノブの設定、機器状況の照会、マウスカーソル表示、ファンクションのシンボルや文字の色、言語など。

Mobile Station (MS 1) 60652

Mobile Station を接続すると、自動的に認識されます。認識後、機関車を Mobile Station に追加、または消去できます。
ここでは、10 台迄の機関車を Mobile Station に割り当てることができます。



Mobile Station (MS 2) 60653

Mobile Station 60653 の取扱説明書を参照してください。

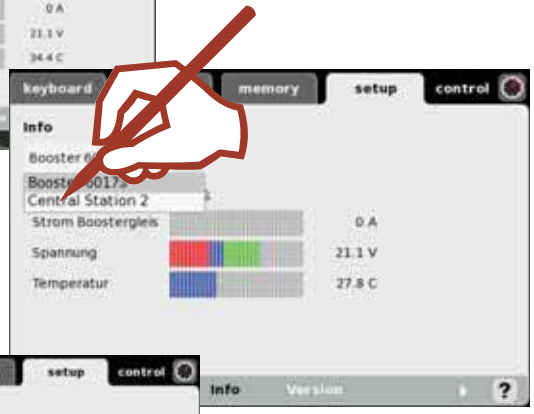
Central Station

ここには、あなたのCentral Station の情報が表示されます。
ここの情報を変更することはできません。

接続機器の情報

選択されたブースターや 2 台目の機器の出力電流、電圧、温度の情報を得ることができます。

選択

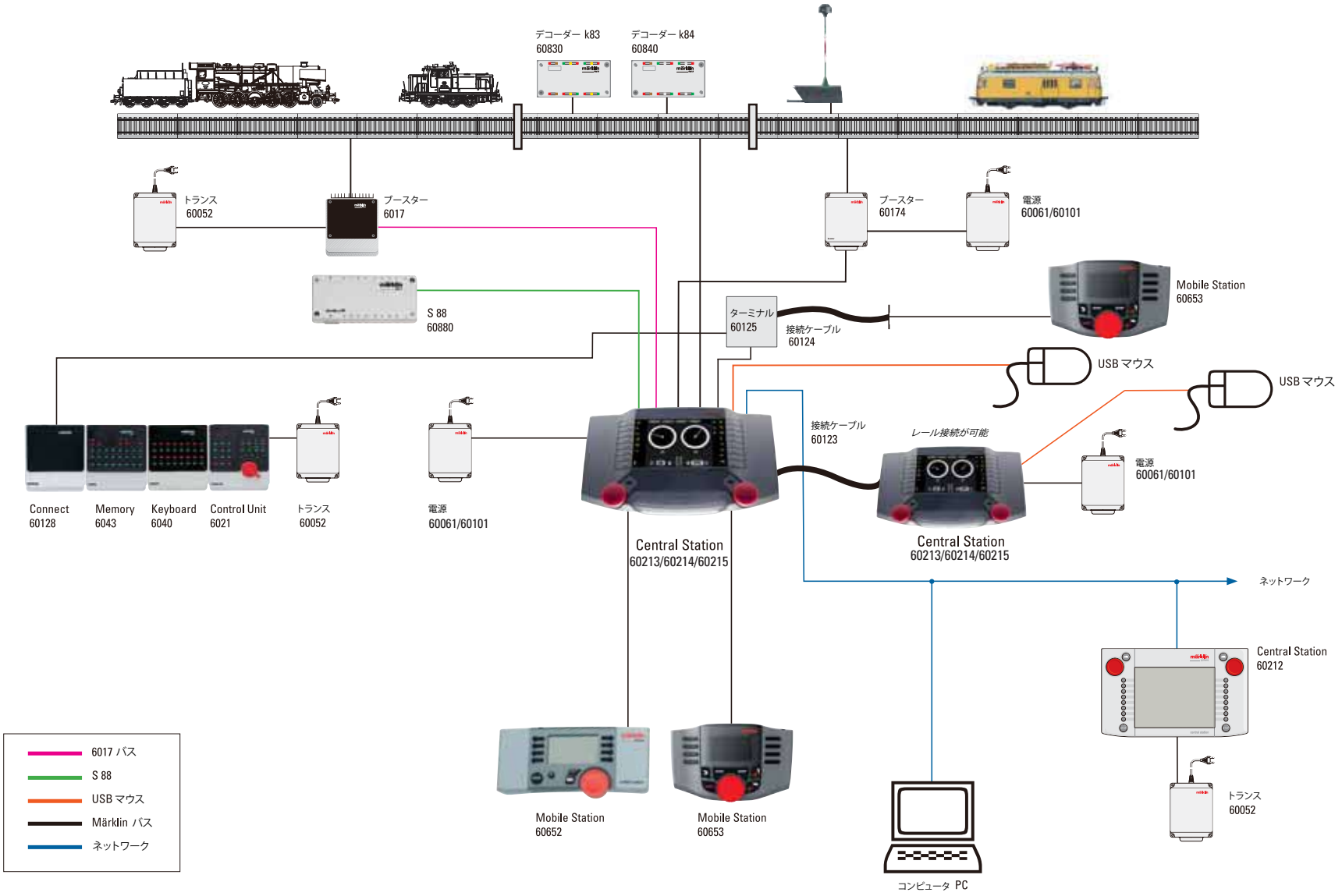


ブースター 60174 の情報

! ブースター 6015 / 6017 の情報は表示されません。

Central Station の情報例

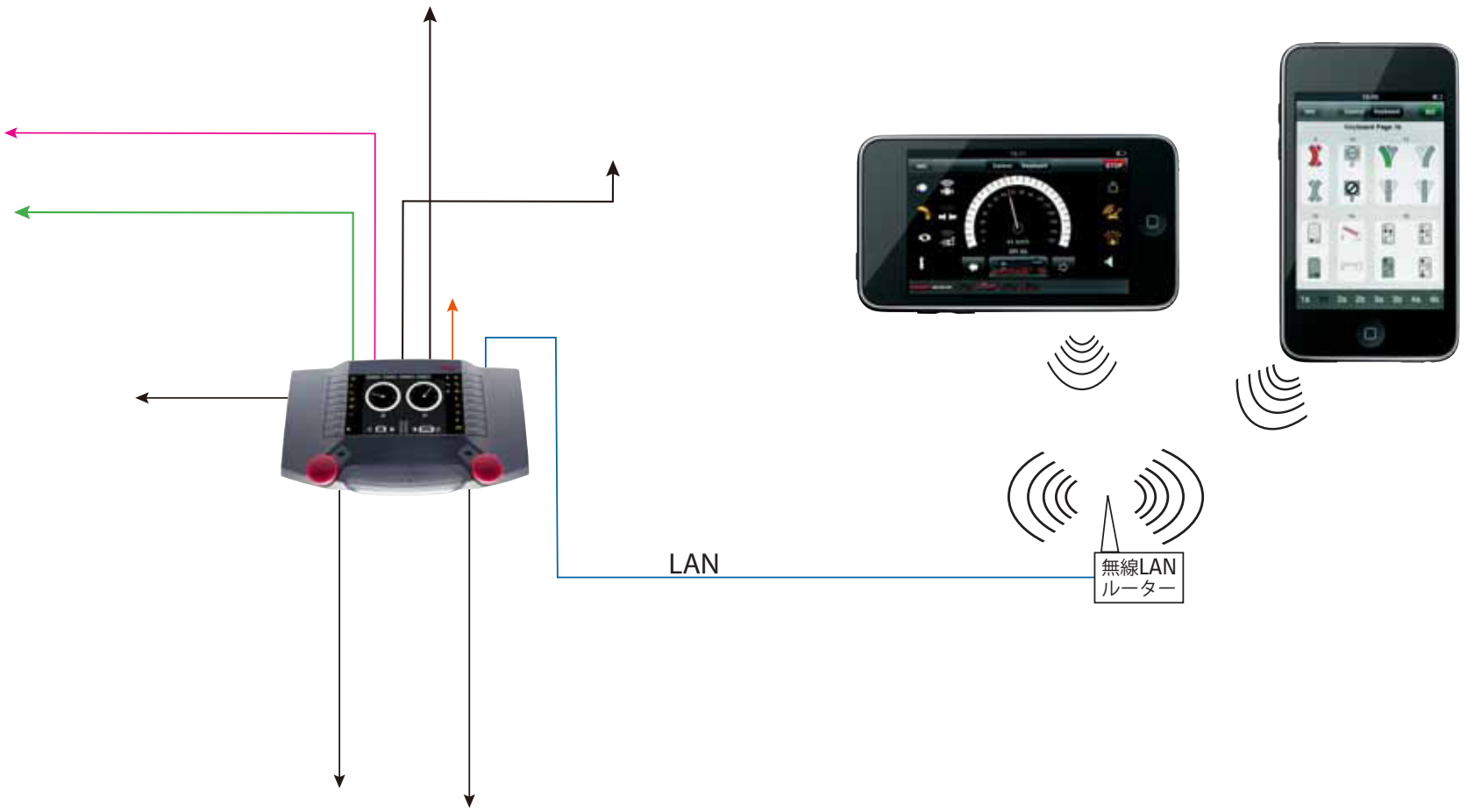
システム構成図


デコーダー k83
60830
デコーダー k84
60840
トランス
60052
ブースター
6017
ブースター
60174
電源
60061/60101
S 88
60880
ターミナル
60125
接続ケーブル
60124
Mobile Station
60653
USB マウス
USB マウス
Connect
60128
Memory
6043
Keyboard
6040
Control Unit
6021
トランス
60052
電源
60061/60101
接続ケーブル
60123
レール接続が可能
電源
60061/60101
Central Station
60213/60214/60215
Central Station
60213/60214/60215
ネットワーク
Central Station
60212
トランス
60052
Mobile Station
60652
Mobile Station
60653
コンピュータ PC
6017 バス
S 88
USB マウス
Märklin バス
ネットワーク

無線の運転とアクセサリ制御には、 iPod touch®、iPhone® もしくは、 iPad® => 容量 32 GB と無線 LAN ルーターが必要です。

どのように機能するのでしょうか？“Märklin Mobile Station“ App (アプリ) をApp Store [SM] で購入し、あなたの機器にアプリをインストールします。

Central Station に無線 LANルーターを接続します。



Available on the iPhone
App Store

Apple, the Apple logo, iPhone , iPad and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.
App Store is a service mark of Apple Inc.

付録：

用意されているファンクションシンボル

ブランク	ABV (加減速遅延)	テーブルランプ エポック III	テレックスカプラー後方	F0 汎用シンボル
前照灯	ポンプ	テーブルランプ エポック II	テレックスカプラー前方	F1 汎用シンボル
室内灯	ブレーキスキール音	火格子揺動音	パンタグラフ後方	F2 汎用シンボル
尾灯	変速機切換音	レールジョイント音	パンタグラフ前方	F3 汎用シンボル
遠方灯	発電機	番号表示灯	ライト後方	F4 汎用シンボル
サウンド	動力音	動作音	ライト前方	F5 汎用シンボル
パンタグラフ	モーター	行先表示	リフト上昇	F6 汎用シンボル
発煙	駅アナウンス	運転室前方	タービン音	F7 汎用シンボル
入換速度	投炭音	運転室後方	動輪灯	F8 汎用シンボル
両側テレックスカプラー	扉閉め音	連結音	シリンダ蒸気排出音	F9 汎用シンボル
ホーン	扉開け音	バッファ接触音	磁石	F10 汎用シンボル
車掌笛	ブロワー音	車内放送	上	F11 汎用シンボル
警鐘	ブロワー	クレーンフック	下	F12 汎用シンボル
上昇/下降	火室炎	点滅灯	左	F13 汎用シンボル
左回転	室内照明	運転室灯	右	F14 汎用シンボル
右回転	テーブルランプ エポック IV	コンプレッサエア音		F15 汎用シンボル
クレーン				
クレーンアーム 上昇/下降				